

大学等名	日本福祉大学
プログラム名	日本福祉大学数理・データサイエンス・AI教育(リテラシーレベル)プログラム

プログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件 学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称
社会福祉学部、経済学部、教育・心理学部、国際福祉開発学部、スポーツ科学部

③ 修了要件
「情報処理演習Ⅰ」(2単位)を修了すること。

必要最低科目数・単位数 1 科目 2 単位 履修必須の有無 令和9年度以降に履修必須とする計画、又は未定

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
情報処理演習Ⅰ	2	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
情報処理演習Ⅰ	2	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
情報処理演習Ⅰ	2	○	○	○					

⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
情報処理演習Ⅰ	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
情報処理演習 I	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	<ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット「情報処理演習 I」(第5回) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上「情報処理演習 I」(第5回) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「情報処理演習 I」(第5回) ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方「情報処理演習 I」(第4回)
	1-6	<ul style="list-style-type: none"> ・AI最新技術の活用例(「情報処理演習 I」第14回) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル「情報処理演習 I」(第8回)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	<ul style="list-style-type: none"> ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「情報処理演習 I」(第5回)
	1-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用領域の広がり「情報処理演習 I」(第8回) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど「情報処理演習 I」(第5回、第8回) ・翻訳・要約・執筆支援、コーディング支援など生成AIの応用「情報処理演習 I」(第14回)
(3)様々なデータ利用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	<ul style="list-style-type: none"> ・データ可視化:複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化「情報処理演習 I」(第12回)
	1-5	<ul style="list-style-type: none"> ・教育、サービス、公共におけるデータ・AI活用事例紹介「情報処理演習 I」(第8回)

(4)活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> 倫理的・法的・社会的課題(ELSI:Ethical, Legal and Social Issues)「情報処理演習 I」(第10回、第11回) 個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト「情報処理演習 I」(第10回、第11回)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティ:機密性、完全性、可用性情報セキュリティの3要素「情報処理演習 I」(第10回、第11回) 匿名加工情報、暗号化と復号、ユーザ認証と、パスワード、アクセス制御、悪意ある情報搾取「情報処理演習 I」(第10回、第11回) 情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「情報処理演習 I」(第10回、第11回)
(5)実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「情報処理演習 I」(第7回) 代表値の性質の違い(実社会では平均値=最頻値でないことが多い)「情報処理演習 I」(第7回) データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値「情報処理演習 I」(第7回) 相関と因果(相関係数、疑似相関、交絡)「情報処理演習 I」(第7回) 統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)「情報処理演習 I」(第7回)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> 不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)「情報処理演習 I」(第12回) 優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)「情報処理演習 I」(第12回) 相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方(スライド作成、プレゼンテーションなど)「情報処理演習 I」(第12回、第13回、第14回)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> データの取得「情報処理演習 I」(第12回、第13回) データの集計(和、平均)「情報処理演習 I」(第12回、第13回) データの並び替え、ランキング「情報処理演習 I」(第12回、第13回)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

数理・データサイエンス・AIなどを、自らの将来と結びつけて利活用すべき場所を示すことのできるだけの知識と想像力を持ち、利活用するための方法を調べる手法と、データを利用して相手に伝えるための表現力と最低限のスキルを身につけることができる。

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に伺うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容
<p>生成AIに関して、2024(令和6)年度には、同科目内で「生成AIとの関わり方」と「生成AIを利用した添削」を行う予定である。 「生成AIとの関わり方」に関しては、学内で定められた生成AIの利用に関する注意事項の文章をもとに、禁止事項について説明するものである。 「生成AIを利用した添削」では、自らが考えた文章に対するアドバイスを求めるといった、本学において推奨される使い方を体験させるものである。 その恩恵をすでに様々な場面で享受しているこれら技術について、ネガティブな考えを持たせるだけというのは問題があるため、推奨する使い方を体験させることで、生成AIという仕組みの良さについても実感させる予定である。</p>

大学等名	日本福祉大学
プログラム名	日本福祉大学数理・データサイエンス・AI教育(リテラシーレベル)プログラム

プログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件 学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称

看護学部、健康科学部リハビリテーション学科、健康科学部福祉工学科建築/バリアフリー専修

③ 修了要件

「情報処理演習」(2単位)を修了すること。

必要最低科目数・単位数 1 科目 2 単位 履修必須の有無 令和9年度以降に履修必須とする計画、又は未定

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
情報処理演習	2	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
情報処理演習	2	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
情報処理演習	2	○	○	○					

⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
情報処理演習	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
情報処理演習	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 <ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット「情報処理演習」(第5回) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上「情報処理演習」(第5回) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「情報処理演習」(第5回) ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方「情報処理演習」(第4回)
	1-6 <ul style="list-style-type: none"> ・AI最新技術の活用例「情報処理演習」(第14回) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル「情報処理演習」(第8回)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 <ul style="list-style-type: none"> ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「情報処理演習」(第5回)
	1-3 <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用領域の広がり「情報処理演習」(第8回) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど「情報処理演習」(第5回、第8回) ・翻訳・要約・執筆支援、コーディング支援など生成AIの応用「情報処理演習」(第14回)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 <ul style="list-style-type: none"> ・データ可視化:複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化「情報処理演習」(第12回)
	1-5 <ul style="list-style-type: none"> ・教育、サービス、公共におけるデータ・AI活用事例紹介「情報処理演習」(第8回)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理的・法的・社会的課題(ELSI:Ethical, Legal and Social Issues)「情報処理演習」(第10回、第11回) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト「情報処理演習」(第10回、第11回)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ:機密性、完全性、可用性情報セキュリティの3要素「情報処理演習」(第10回、第11回) ・匿名加工情報、暗号化と復号、ユーザ認証と、パスワード、アクセス制御、悪意ある情報搾取「情報処理演習」(第10回、第11回) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「情報処理演習」(第10回、第11回)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「情報処理演習」(第7回) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値-最頻値でないことが多い)「情報処理演習」(第7回) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値「情報処理演習」(第7回) ・相関と因果(相関係数、疑似相関、交絡)「情報処理演習」(第7回) ・統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)「情報処理演習」(第7回)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)「情報処理演習」(第12回) ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)「情報処理演習」(第12回) ・相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え(スライド作成、プレゼンテーションなど)「情報処理演習」(第12回、第13回、第14回)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データの取得「情報処理演習」(第12回、第13回) ・データの集計(和、平均)「情報処理演習」(第12回、第13回) ・データの並び替え、ランキング「情報処理演習」(第12回、第13回)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

数理・データサイエンス・AIなどを、自らの将来と結びつけて利活用すべき場所を示すことのできるだけの知識と想像力を持ち、利活用するための方法を調べる手法と、データを利用して相手に伝えるための表現力と最低限のスキルを身につけることができる。

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に何うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容
生成AIに関して、2024(令和6)年度には、同科目内で「生成AIとの関わり方」と「生成AIを利用した添削」を行う予定である。 「生成AIとの関わり方」に関しては、学内で定められた生成AIの利用に関する注意事項の文章をもとに、禁止事項について説明するものである。 「生成AIを利用した添削」では、自らが考えた文章に対するアドバイスを求めるといった、本学において推奨される使い方を体験させるものである。 その恩恵をすでに様々な場面で享受しているこれら技術について、ネガティブな考えを持たせただけというのは問題があるため、推奨する使い方を体験させることで、生成AIという仕組みの良さについても実感させる予定である。

大学等名	日本福祉大学
プログラム名	日本福祉大学数理・データサイエンス・AI教育(リテラシーレベル)プログラム

プログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件 学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称

健康科学部福祉工学科情報工学専修

③ 修了要件

「情報処理」(2単位)を修了すること

必要最低科目数・単位数 1 科目 2 単位 履修必須の有無 令和9年度以降に履修必須とする計画、又は未定

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
情報処理	2	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
情報処理	2	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
情報処理	2	○	○	○					

⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
情報処理	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
情報処理	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	<ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット「情報処理」(第2回) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上「情報処理」(第2回) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「情報処理」(第2回) ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方「情報処理」(第1回)
	1-6	<ul style="list-style-type: none"> ・AI最新技術の活用例「情報処理」(第10回) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル「情報処理」(第5回)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	<ul style="list-style-type: none"> ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「情報処理」(第2回)
	1-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用領域の広がり「情報処理」(第5回) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど「情報処理」(第2回、第5回) ・翻訳・要約・執筆支援、コーディング支援など生成AIの応用「情報処理」(第10回)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	<ul style="list-style-type: none"> ・データ可視化:複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化「情報処理」(第8回)
	1-5	<ul style="list-style-type: none"> ・教育、サービス、公共におけるデータ・AI活用事例紹介「情報処理」(第5回)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理的・法的・社会的課題(ELSI:Ethical, Legal and Social Issues)「情報処理」(第6回、第7回) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト「情報処理」(第6回、第7回)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ:機密性、完全性、可用性情報セキュリティの3要素「情報処理」(第6回、第7回) ・匿名加工情報、暗号化と復号、ユーザ認証と、パスワード、アクセス制御、悪意ある情報搾取「情報処理」(第6回、第7回) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「情報処理」(第6回、第7回)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「情報処理」(第4回、第8回) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値-最頻値でないことが多い)「情報処理」(第4回、第8回) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値「情報処理」(第4回、第8回) ・相関と因果(相関係数、疑似相関、交絡)「情報処理」(第4回、第8回) ・統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)「情報処理」(第4回、第8回)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)「情報処理」(第8回) ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)「情報処理」(第8回) ・相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え(スライド作成、プレゼンテーションなど)「情報処理」(第8回、第9回、第10回)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データの取得「情報処理」(第8回、第9回) ・データの集計(和、平均)「情報処理」(第8回、第9回) ・データの並び替え、ランキング「情報処理」(第8回、第9回)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

数理・データサイエンス・AIなどを、自らの将来と結びつけて利活用すべき場所を示すことのできるだけの知識と想像力を持ち、利活用するための方法を調べる手法と、データを利用して相手に伝えるための表現力と最低限のスキルを身につけることができる。

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に何うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容
生成AIに関して、2024(令和6)年度には、同科目内で「生成AIとの関わり方」と「生成AIを利用した添削」を行う予定である。 「生成AIとの関わり方」に関しては、学内で定められた生成AIの利用に関する注意事項の文章をもとに、禁止事項について説明するものである。 「生成AIを利用した添削」では、自らが考えた文章に対するアドバイスを求めるといった、本学において推奨される使い方を体験させるものである。 その恩恵をすでに様々な場面で享受しているこれら技術について、ネガティブな考えを持たせただけというのは問題があるため、推奨する使い方を体験させることで、生成AIという仕組みの良さについても実感させる予定である。

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和5 年度

②大学等全体の男女別学生数 男性 3087 人 女性 2131 人 (合計 5218 人)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
社会福祉学部	1,275	400	1,680	260	245											260	15%
経済学部	868	200	800	206	178											206	26%
健康科学部	718	220	850	161	156											161	19%
教育・心理学部	956	315	1,260	191	178											191	15%
国際福祉開発学部	234	80	320	32	32											32	10%
看護学部	426	100	400	107	106											107	27%
スポーツ科学部	702	180	720	200	188											200	28%
子ども発達学部	39	0	0	0	0											0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合計	5,218	1,495	6,030	1,157	1,083	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,157	19%

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

- ① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人
- ② プログラムの授業を教えている教員数 人
- ③ プログラムの運営責任者
 (責任者名) (役職名)

- ④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

 (責任者名) (役職名)

- ⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

- ⑥ 体制の目的
- 全学教育センターは全学共通教育科目の開発と運営全般及び学部間共通科目に関わる教育計画編成と授業運営を業務の1つとしている。
 プログラムを実施する科目は、全学教育センターが各学部から移管を受けて内容構成をする科目であり、同科目は統括担当教員が各クラスの状況を把握し、毎年度の授業評価とともに次年度の内容の構築、改善・進化を図っている。また、そのプロセスについては「全学教育センター教員会議規程」に基づき設置される全学教育センター教員会議にて点検・評価を行っている。
 (「全学教育センター教員会議規程」第6条第5号、第6号に規定)
 ただし、プログラムの改善・進化については、多角的な視点から評価されるべきことから、必要に応じ、全学教育センターから大学組織に対し、審議、確認の要請を行うほか、全学部の教務事項を統括する業務執行機関である全学教務委員会の審議に付し、全学教育センターでその結果を基に協議している。

- ⑦ 具体的な構成員
- 全学教育センター長 野尻紀恵 教授
 全学教育センター副センター長、共通教育部門長 石田知美 准教授
 学修管理・支援部門長 村川弘城 講師
 教育開発部門長 高村秀史 講師
 地域連携教育部門長 佐藤大介 講師

<事務局体制>
 学務部学務課
 学務部長 中村太郎
 学務課長 河合太郎
 全学教育センター事務長 吉澤智文

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和5年度実績	19%	令和6年度予定	44%	令和7年度予定	68%
令和8年度予定	93%	令和9年度予定	99%	収容定員(名)	6,030

具体的な計画

当該プログラムを実施する科目は、以前より日本福祉大学健康科学部福祉工学科情報工学専修を除き卒業に必要な必修科目、もしくは全員履修科目として位置付けている。健康科学部福祉工学科情報工学専修においても卒業に必要な必修科目である「卒業研究Ⅱ」の履修前提条件科目として位置付けられており、実質的に学生は必ず履修すべき科目として位置付けられている。ただし、編入生・転入生は任意履修科目。
プログラム自体は、令和5年度より実施しており、当該年度の1年生(新入生)の履修率は100%となっている。
今後も当該科目を履修することは必須であるため、履修率についてはほぼ100%を維持する見込みである。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

希望する学生問わず、これまで卒業必修科目、全員履修科目、卒業必修科目を履修するための履修前提条件科目としてきた「情報処理」に関する科目について、内容改訂、コンテンツ作成をすることで、1年生の全学生が受講できるように整備している。

「情報処理演習」「情報処理演習Ⅰ」は健康科学部福祉工学科情報工学専修を除き、学部の総合基礎科目として開設されており、その教育内容は全学教育センターに移管されて実施している。
健康科学部福祉工学科情報工学専修では令和5年度より「情報処理」の教育内容を全学教育センターに移管して実施しており、全学部でプログラム修了に必要なカリキュラムを実施できる体制を整えている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

卒業必修科目、全員履修科目、卒業必修科目を履修するための履修前提条件科目に位置づいており全学生が履修する構造となっている。
履修要項、時間割、履修システム等を用いて、履修に必要な情報が確認できるようにしている。また科目の開講時に、担当教員を通じて、科目の趣旨や目的について伝えるようにしている。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

専任教員、および外部委託講師による指導教員を配置、また履修人数によりティーチング・アシスタントを配置し、学生の履修や修学についての相談を受けている。
またICT推進室でも事務職員が履修などのサポートを行っている。
2021年度よりBYODを推進しつつ、PCを携行できない学生向けに貸し出しサービスを提供している。また、図書館で関連分野の学生向け書籍を整備している。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

授業時間内に質問を受け付けているほか、学内LMSを用いて授業時間外でも質問を受け付け、回答を行っている。またオフィスアワーを設け、受講生が直接教員の研究室を訪ねて学習指導が受けられるようにしている。

大学等名 日本福祉大学

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

日本福祉大学全学教育センター教員会議

(責任者名) 野尻紀恵

(役職名) 学長補佐・全学教育センター長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>プログラムは、通学課程全学部で開講されている科目で構成しており、該当の科目は各学部の卒業必修科目、全員履修科目、卒業必修科目を履修するための履修前提条件科目として位置付けている。1年次に全ての学生が履修登録を行っている。修得に向けては、各講における課題提出状況、オンデマンドコンテンツ視聴履歴、進捗を本学LMSシステム(nfu.jp)にて把握することができる。今年度においては、履修者数1157名のうち、修了者1083名(93.6%)という結果となった。本プログラムの実施は2023(令和5)年度からとなるため、経年での比較はできないが導入前の授業内容での修了者の割合と大きな差は見られなかった。</p>
学修成果	<p>学修成果としては、社会の変化と数理・データサイエンス・AIとの関係性と、それらが自らに対して与える影響について理解することを目指している。このため学生に対しては、一般的な影響などに関してはオンデマンドで、自らに対する影響などは、ディスカッションやレポートによって考える機会を与えている。これらのレポートにおける理解度に加え、授業評価アンケートによる理解や満足度などをもとに、本講義の担当者や事務局などが一体となってプログラムの評価・改善を行っている。</p>
学生アンケート等を通じた学生の理解度	<p>数理・データサイエンス・AI教育に関する問いに関して、教員の説明のわかりやすさ、グループワークが学びを深めるのに役に立ったかなどに関しては、肯定的な意見が8割を超えていた。また、より高度な内容を受講したいかの質問に関しても、肯定的な意見が50%を超えており、教育内容や学修効果を満たしていたといえる。授業内容の一部で導入したオンデマンドコンテンツに関する質問に関しては、全体的に集中していたと答えた学生は半数を超え、コンテンツの利点を生かした教育内容がおおむね達成できたと評価できる。また、7割の学生が当該教育内容についてオンデマンドでの学びやすさは対面の講義と同等かそれ以上であると答えていた。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>プログラムについては、通学課程全学部で開講されている科目で構成しており、該当の科目は各学部の卒業必修科目、全員履修科目、卒業必修科目を履修するための履修前提条件科目として位置付けており、1年次入学生は履修推奨度によらず履修するものであるが、授業評価アンケートの結果を踏まえると、教員の説明のわかりやすさ、グループワークが学びを深めるのに役に立ったかなどに関しては、肯定的な意見が8割を超えていた。また授業全体の満足度、将来に役に立つと思うか、といった問いに対しても肯定的な意見が8割を超えており、特に将来に役に立つと感じた学生は9割を超えていた、内容としては十分に履修を推奨できるものであると言える。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>通学課程全学部で開講されている科目で構成しており、該当の科目は各学部の卒業必修科目、全員履修科目、卒業必修科目を履修するための前提条件科目として位置付けているため、現状対応することは見受けられない。ただし、本学の全ての学生が履修するプログラムとして、また今後の各学部カリキュラム改正等においても、有効な必修科目、全員履修科目として編成されるべく、履修者の状況を見ながらプログラムの見直しや点検を行っていくこととしている。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>プログラムは2024(令和5)年度より実施しているため、現段階での進路、活躍状況、企業等の評価を計ることはできないが、今後就職支援を行う部局との連携により進路調査や卒業調査も含めて集約の実施を検討する。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>本学の外部評価委員会にて教育プログラム内容や手法について報告を実施し、多様な分野の委員より意見聴取を行う機会を設けている。</p> <p><主な意見> 福祉分野: ICT導入(AI, UDTーク, ロボットなど)が近年話題となることも多く、機器トラブルへの対応については知識の有無に大きな差を感じる。またスキルを有する職員がいると業務の効率化がかなり進む印象があり、基礎的な知識を持って社会に出ることを期待したい。 企業分野: 収集したデータの分析・活用方法を知ることは重要であるため、そうした視点での活用事例を提供するなど、協力できることもある。 など、プログラムの充実に対する助言も得ることができている。</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<p>数理・データサイエンス・AIに関する話題は、ゲームでの戦略などをもとにAIの話題に触れたりすることで、学生の興味に沿うようにしている。普段の暮らしの中で興味があるような内容と数理・データサイエンス・AIとの関わりを示し、学ぶことによって生活がより鮮明になり、これからの社会への予測が立てられるようになることから、学ぶことが楽しくなるように工夫している。また、卒業後の進路や将来と新しい技術やそれに伴う心構えとを常に意識させながら実施している。グループワークやレポートなどにおいても卒業後を意識するテーマにしており、それぞれの学生の目指す専門的なものとの関係性を見出し、学ぶことの意義へとつなげている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>本学は、全学生が履修する形で行なうこと、異なった視点を持つ他の人と価値観をすり合わせつつ知見を共有させること、また、聴覚障害などの学生に対する情報保障を行うことといった条件の中で仕組みを検討してきた。このため、日進月歩で進化していく内容に関しては、グループワークの中で新しい情報を調査、共有させることとし、これまでの歴史や、考え方、目指すものなど、すぐには変わらず、知識として伝達できるものに関しては、オンデマンドで実施することとした。内容の質やレベルに関しては、高等学校までの習熟度にも沿うように徐々に改修を進めていくことを最初期から検討しており、今後、より良い教材へと向上していくことも見込まれる。</p>

科目名		単位数	学年配当	開講形態	教員名	
情報処理演習 I		2	1	前期開講	村川弘城、伴裕子、小林信子	
テーマ	情報発信力強化のためのソフトウェアの統合的活用スキルの習得					
科目のねらい						
<p>【キーワード】ソフトウェアの統合的活用、数理・データサイエンス・AI、情報発信力、ICTリテラシ、協働学習</p> <p>【内容の要約】あらゆる場面において、人に自分の考えをわかりやすく伝えることは重要である。図やグラフによるわかりやすい資料作成、論理的で説得力のある資料作成は、そのためにも必須となるもの、これらを数理・データサイエンス・AIに関する話題とともに体験的・統合的に学習していく。大学の情報環境、インターネット環境についての理解も深め、学習や各種活動のためのリソースとして活用していくための基礎を築く。</p> <p>【学習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 文書作成、表計算などのソフトウェアを統合的に扱うことができる。 2 インターネットを駆使して、意図する内容を表現することができる。 3 大学の情報環境を活用し、グループで協働して効果的・効率的に作業を進めることができる。 4 数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識を自らの経験や将来と繋げることができる。 						
授業のながれ 授業方法：演習、一部オンデマンドコンテンツを使用します						
1. 学内環境(1)：ガイダンス、履修登録、nfu.jp、Zoom				16.		
2. 学内環境(2)：情報環境の確認				17.		
3. スキルチェック：Officeスキルのチェック				18.		
4. 情報活用(1)：学内情報サービスの正しい利用、メールのルール(オンデマンド)				19.		
5. 数理・データサイエンス・AI(1)：社会で起きている変化とデータの活用				20.		
6. 情報活用(2)：ファイル添付、データの共有と共同編集				21.		
7. 数理・データサイエンス・AI(2)：データの読み方				22.		
8. 数理・データサイエンス・AI(3)：データ・AIの活用領域と現場				23.		
9. 情報活用(3)：AI利活用の調査及び共有				24.		
10. 数理・データサイエンス・AI(4)：データ・AIを扱う上での留意事項と身の守り方				25.		
11. 情報活用(4)：情報セキュリティの最新情報の調査及び共有				26.		
12. 数理・データサイエンス・AI(5)：データの説明方法、複合グラフ				27.		
13. 情報活用(5)：グラフの作成				28.		
14. 数理・データサイエンス・AI(6)：アクセシビリティとAI				29.		
15. まとめ				30.		
準備学習の内容・学ぶ上での注意				事前事後学習		
<p>操作を覚えるのではなく、学んだスキルをどのように活用できるかが重要である。活用場面をイメージできるよう、教員からも情報提供を行うが、自分自身でも活用場面を常に意識するようにしてほしい。授業時間中は、話を聞くべき時には集中して聞き、パソコンを利用して作業をすべき時にはしっかりと作業するというように、その時々で自分が何をすべきかをしっかりと考えながら、メリハリを付けて取り組んで欲しい。学習内容の定着を図るため、課題(宿題)の実施を含め、授業時間と同程度の復習をすることが求められる。グループワーク等には、授業時にスムーズに作業に入れるよう、指示に従って事前の検討(予習)もしておくこと。なお、状況により開講形態が変更になることがあります。その場合「科目のお知らせ」などで告示します。</p> <p>一部授業教材としてオンデマンドコンテンツを用いますので、分からないところは繰り返し視聴し学習しましょう。</p> <p>【本科目の関連科目】情報処理演習Ⅱ</p>				事前	個人PCの環境設定	2時間
				事前	Officeスキルの確認	3時間
				事後	復習課題・発展課題への取り組み	15時間
				事後	授業内演習課題・確認テストの復習・振り返り	10時間
						時間
						時間
成績評価の方法						
期末試験(筆記・Web・レポート・最終授業内) 0% 授業内でのレポート・課題等 70% その他 30%		適宜行う課題の達成状況等によって評価する。欠席が1/3を超える場合は棄権とみなし、単位を与えない。演習・グループワークへの取り組み姿勢も考慮する。定期試験は行わない。				
テキスト						
テキストを利用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> (最初の授業で指示する)		<著者>富士通ラーニングメディア <テキスト名>情報リテラシーアプリ編 Windows11/Office2021 対応 <出版社>富士通ラーニングメディア				

科目名		単位数	学年配当	開講形態	教員名	
情報処理演習 I		2	1	前期開講	小林信子、福嶋恵理子	
テーマ	情報発信力強化のためのソフトウェアの統合的活用スキルの習得					
科目のねらい						
<p>【キーワード】ソフトウェアの統合的活用、数理・データサイエンス・AI、情報発信力、ICTリテラシ、協働学習</p> <p>【内容の要約】あらゆる場面において、人に自分の考えをわかりやすく伝えることは重要である。図やグラフによるわかりやすい資料作成、論理的で説得力のある資料作成は、そのためにも必須となるもの、これらを数理・データサイエンス・AIに関する話題とともに体験的・統合的に学習していく。大学の情報環境、インターネット環境についての理解も深め、学習や各種活動のためのリソースとして活用していくための基礎を築く。</p> <p>【学習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 文書作成、表計算などのソフトウェアを統合的に扱うことができる。 2 インターネットを駆使して、意図する内容を表現することができる。 3 大学の情報環境を活用し、グループで協働して効果的・効率的に作業を進めることができる。 4 数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識を自らの経験や将来と繋げることができる。 						
授業のながれ 授業方法：演習、一部オンデマンドコンテンツを使用します						
1. 学内環境(1)：ガイダンス、履修登録、nfu.jp、Zoom		16.				
2. 学内環境(2)：情報環境の確認		17.				
3. スキルチェック：Officeスキルのチェック		18.				
4. 情報活用(1)：学内情報サービスの正しい利用、メールのルール(オンデマンド)		19.				
5. 数理・データサイエンス・AI(1)：社会で起きている変化とデータの活用		20.				
6. 情報活用(2)：ファイル添付、データの共有と共同編集		21.				
7. 数理・データサイエンス・AI(2)：データの読み方		22.				
8. 数理・データサイエンス・AI(3)：データ・AIの活用領域と現場		23.				
9. 情報活用(3)：AI利活用の調査及び共有		24.				
10. 数理・データサイエンス・AI(4)：データ・AIを扱う上での留意事項と身の守り方		25.				
11. 情報活用(4)：情報セキュリティの最新情報の調査及び共有		26.				
12. 数理・データサイエンス・AI(5)：データの説明方法、複合グラフ		27.				
13. 情報活用(5)：グラフの作成		28.				
14. 数理・データサイエンス・AI(6)：アクセシビリティとAI		29.				
15. まとめ		30.				
準備学習の内容・学ぶ上での注意				事前事後学習		
<p>操作を覚えるのではなく、学んだスキルをどのように活用できるかが重要である。活用場面をイメージできるよう、教員からも情報提供を行うが、自分自身でも活用場面を常に意識するようにしてほしい。授業時間中は、話を聞くべき時には集中して聞き、パソコンを利用して作業をすべき時にはしっかりと作業するというように、その時々で自分が何をすべきかをしっかりと考えながら、メリハリを付けて取り組んで欲しい。学習内容の定着を図るため、課題(宿題)の実施を含め、授業時間と同程度の復習をすることが求められる。グループワーク等には、授業時にスムーズに作業に入れるよう、指示に従って事前の検討(予習)もしておくこと。なお、状況により開講形態が変更になることがあります。その場合「科目のお知らせ」などで告示します。</p> <p>一部授業教材としてオンデマンドコンテンツを用いますので、分からないところは繰り返し視聴し学習しましょう。</p> <p>【本科目の関連科目】情報処理演習Ⅱ</p>				事前	個人PCの環境設定	2時間
				事前	Officeスキルの確認	3時間
				事後	復習課題・発展課題への取り組み	15時間
				事後	授業内演習課題・確認テストの復習・振り返り	10時間
						時間
成績評価の方法						
期末試験(筆記・Web・レポート・最終授業内) 0% 授業内でのレポート・課題等 70% その他 30%		適宜行う課題の達成状況等によって評価する。欠席が1/3を超える場合は棄権とみなし、単位を与えない。演習・グループワークへの取り組み姿勢も考慮する。定期試験は行わない。				
テキスト						
テキストを利用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> (最初の授業で指示する)		<著者>富士通ラーニングメディア <テキスト名>情報リテラシーアプリ編 Windows11/Office2021 対応 <出版社>富士通ラーニングメディア				

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名	
情報処理演習 I	2	1	前期開講	西尾真紀子、伴裕子、福嶋恵理子、榎本明美	
テーマ	情報発信力強化のためのソフトウェアの統合的活用スキルの習得				
科目のねらい					
<p>【キーワード】ソフトウェアの統合的活用、数理・データサイエンス・AI、情報発信力、ICTリテラシ、協働学習</p> <p>【内容の要約】あらゆる場面において、人に自分の考えをわかりやすく伝えることは重要である。図やグラフによるわかりやすい資料作成、論理的で説得力のある資料作成は、そのためにも必須となるもの、これらを数理・データサイエンス・AIに関する話題とともに体験的・統合的に学習していく。大学の情報環境、インターネット環境についての理解も深め、学習や各種活動のためのリソースとして活用していくための基礎を築く。</p> <p>【学習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 文書作成、表計算などのソフトウェアを統合的に扱うことができる。 2 インターネットを駆使して、意図する内容を表現することができる。 3 大学の情報環境を活用し、グループで協働して効果的・効率的に作業を進めることができる。 4 数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識を自らの経験や将来と繋げることができる。 					
授業のながれ 授業方法：演習、一部オンデマンドコンテンツを使用します					
1. 学内環境(1)：ガイダンス、履修登録、nfu.jp、Zoom	16.				
2. 学内環境(2)：情報環境の確認	17.				
3. スキルチェック：Officeスキルのチェック	18.				
4. 情報活用(1)：学内情報サービスの正しい利用、メールのルール(オンデマンド)	19.				
5. 数理・データサイエンス・AI(1)：社会で起きている変化とデータの活用	20.				
6. 情報活用(2)：ファイル添付、データの共有と共同編集	21.				
7. 数理・データサイエンス・AI(2)：データの読み方	22.				
8. 数理・データサイエンス・AI(3)：データ・AIの活用領域と現場	23.				
9. 情報活用(3)：AI利活用の調査及び共有	24.				
10. 数理・データサイエンス・AI(4)：データ・AIを扱う上での留意事項と身の守り方	25.				
11. 情報活用(4)：情報セキュリティの最新情報の調査及び共有	26.				
12. 数理・データサイエンス・AI(5)：データの説明方法、複合グラフ	27.				
13. 情報活用(5)：グラフの作成	28.				
14. 数理・データサイエンス・AI(6)：アクセシビリティとAI	29.				
15. まとめ	30.				
準備学習の内容・学ぶ上での注意			事前事後学習		
<p>操作を覚えることではなく、学んだスキルをどのように活用できるかが重要である。活用場面をイメージできるよう、教員からも情報提供を行うが、自分自身でも活用場面を常に意識するようにしてほしい。授業時間中は、話を聞くべき時には集中して聞き、パソコンを利用して作業をすべき時にはしっかりと作業するというように、その時々で自分が何をすべきかをしっかりと考えながら、メリハリを付けて取り組んで欲しい。学習内容の定着を図るため、課題(宿題)の実施を含め、授業時間と同程度の復習をすることが求められる。グループワーク等には、授業時にスムーズに作業に入れるよう、指示に従って事前の検討(予習)もしておくこと。なお、状況により開講形態が変更になることがあります。その場合「科目のお知らせ」などで告示します。</p> <p>一部授業教材としてオンデマンドコンテンツを用いますので、分からないところは繰り返し視聴し学習しましょう。</p> <p>【本科目の関連科目】情報処理演習Ⅱ</p>			事前	個人PCの環境設定	2時間
			事前	Officeスキルの確認	3時間
			事後	復習課題・発展課題への取り組み	15時間
			事後	授業内演習課題・確認テストの復習・振り返り	10時間
					時間
					時間
成績評価の方法					
期末試験(筆記・Web・レポート・最終授業内) 0% 授業内でのレポート・課題等 70% その他 30%	適宜行う課題の達成状況等によって評価する。欠席が1/3を超える場合は棄権とみなし、単位を与えない。演習・グループワークへの取り組み姿勢も考慮する。定期試験は行わない。				
テキスト					
テキストを利用する <input checked="" type="checkbox"/> レジューメを使用する <input type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> (最初の授業で指示する)	<著者>富士通ラーニングメディア <テキスト名>情報リテラシーアプリ編 Windows11/Office2021 対応 <出版社>富士通ラーニングメディア				

科目名		単位数	学年配当	開講形態	教員名	
情報処理演習 I		2	1	前期開講	村川弘城	
テーマ	情報発信力強化のためのソフトウェアの統合的活用スキルの習得					
科目のねらい						
<p>【キーワード】ソフトウェアの統合的活用、数理・データサイエンス・AI、情報発信力、ICTリテラシ、協働学習</p> <p>【内容の要約】あらゆる場面において、人に自分の考えをわかりやすく伝えることは重要である。図やグラフによるわかりやすい資料作成、論理的で説得力のある資料作成は、そのためにも必須となるもの、これらを数理・データサイエンス・AIに関する話題とともに体験的・統合的に学習していく。大学の情報環境、インターネット環境についての理解も深め、学習や各種活動のためのリソースとして活用していくための基礎を築く。</p> <p>【学習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 文書作成、表計算などのソフトウェアを統合的に扱うことができる。 2 インターネットを駆使して、意図する内容を表現することができる。 3 大学の情報環境を活用し、グループで協働して効果的・効率的に作業を進めることができる。 4 数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識を自らの経験や将来と繋げることができる。 						
授業のながれ 授業方法：演習、一部オンデマンドコンテンツを使用します						
1. 学内環境(1)：ガイダンス、履修登録、nfu.jp、Zoom		16.				
2. 学内環境(2)：情報環境の確認		17.				
3. スキルチェック：Officeスキルのチェック		18.				
4. 情報活用(1)：学内情報サービスの正しい利用、メールのルール(オンデマンド)		19.				
5. 数理・データサイエンス・AI(1)：社会で起きている変化とデータの活用		20.				
6. 情報活用(2)：ファイル添付、データの共有と共同編集		21.				
7. 数理・データサイエンス・AI(2)：データの読み方		22.				
8. 数理・データサイエンス・AI(3)：データ・AIの活用領域と現場		23.				
9. 情報活用(3)：AI利活用の調査及び共有		24.				
10. 数理・データサイエンス・AI(4)：データ・AIを扱う上での留意事項と身の守り方		25.				
11. 情報活用(4)：情報セキュリティの最新情報の調査及び共有		26.				
12. 数理・データサイエンス・AI(5)：データの説明方法、複合グラフ		27.				
13. 情報活用(5)：グラフの作成		28.				
14. 数理・データサイエンス・AI(6)：アクセシビリティとAI		29.				
15. まとめ		30.				
準備学習の内容・学ぶ上での注意				事前事後学習		
<p>操作を覚えることではなく、学んだスキルをどのように活用できるかが重要である。活用場面をイメージできるよう、教員からも情報提供を行うが、自分自身でも活用場面を常に意識するようにしてほしい。授業時間中は、話を聞くべき時には集中して聞き、パソコンを利用して作業をすべき時にはしっかりと作業するというように、その時々で自分が何をすべきかをしっかりと考えながら、メリハリを付けて取り組んで欲しい。学習内容の定着を図るため、課題(宿題)の実施を含め、授業時間と同程度の復習をすることが求められる。グループワーク等には、授業時にスムーズに作業に入れるよう、指示に従って事前の検討(予習)もしておくこと。なお、状況により開講形態が変更になることがあります。その場合「科目のお知らせ」などで告示します。</p> <p>一部授業教材としてオンデマンドコンテンツを用いますので、分からないところは繰り返し視聴し学習しましょう。</p> <p>【本科目の関連科目】情報処理演習Ⅱ</p>				事前	個人PCの環境設定	2時間
				事前	Officeスキルの確認	3時間
				事後	復習課題・発展課題への取り組み	15時間
				事後	授業内演習課題・確認テストの復習・振り返り	10時間
						時間
						時間
成績評価の方法						
期末試験(筆記・Web・レポート・最終授業内) 0% 授業内でのレポート・課題等 70% その他 30%		適宜行う課題の達成状況等によって評価する。欠席が1/3を超える場合は棄権とみなし、単位を与えない。演習・グループワークへの取り組み姿勢も考慮する。定期試験は行わない。				
テキスト						
テキストを利用する <input checked="" type="checkbox"/> レジューメを使用する <input type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> (最初の授業で指示する)		<著者>富士通ラーニングメディア <テキスト名>情報リテラシーアプリ編 Windows11/Office2021 対応 <出版社>富士通ラーニングメディア				

科目名		単位数	学年配当	開講形態	教員名	
情報処理演習 I		2	1	前期開講	村川弘城、佐藤大介	
テーマ	情報発信力強化のためのソフトウェアの統合的活用スキルの習得					
科目のねらい						
<p>【キーワード】ソフトウェアの統合的活用、数理・データサイエンス・AI、情報発信力、ICTリテラシ、協働学習</p> <p>【内容の要約】あらゆる場面において、人に自分の考えをわかりやすく伝えることは重要である。図やグラフによるわかりやすい資料作成、論理的で説得力のある資料作成は、そのためにも必須となるもの、これらを数理・データサイエンス・AI に関する話題とともに体験的・統合的に学習していく。大学の情報環境、インターネット環境についての理解も深め、学習や各種活動のためのリソースとして活用していくための基礎を築く。</p> <p>【学習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 文書作成、表計算などのソフトウェアを統合的に扱うことができる。 2 インターネットを駆使して、意図する内容を表現することができる。 3 大学の情報環境を活用し、グループで協働して効果的・効率的に作業を進めることができる。 4 数理・データサイエンス・AI に関する基礎的な知識を自らの経験や将来と繋げることができる。 						
授業のながれ 授業方法：演習、一部オンデマンドコンテンツを使用します						
1. 学内環境(1)：ガイダンス、履修登録、nfu.jp、Zoom		16.				
2. 学内環境(2)：情報環境の確認		17.				
3. スキルチェック：Office スキルのチェック		18.				
4. 情報活用(1)：学内情報サービスの正しい利用、メールのルール(オンデマンド)		19.				
5. 数理・データサイエンス・AI(1)：社会で起きている変化とデータの活用		20.				
6. 情報活用(2)：ファイル添付、データの共有と共同編集		21.				
7. 数理・データサイエンス・AI(2)：データの読み方		22.				
8. 数理・データサイエンス・AI(3)：データ・AI の活用領域と現場		23.				
9. 情報活用(3)：AI 利活用の調査及び共有		24.				
10. 数理・データサイエンス・AI(4)：データ・AI を扱う上での留意事項と身の守り方		25.				
11. 情報活用(4)：情報セキュリティの最新情報の調査及び共有		26.				
12. 数理・データサイエンス・AI(5)：データの説明方法、複合グラフ		27.				
13. 情報活用(5)：グラフの作成		28.				
14. 数理・データサイエンス・AI(6)：アクセシビリティと AI		29.				
15. まとめ		30.				
準備学習の内容・学ぶ上での注意				事前事後学習		
<p>操作を覚えることではなく、学んだスキルをどのように活用できるかが重要である。活用場面をイメージできるよう、教員からも情報提供を行うが、自分自身でも活用場面を常に意識するようにしてほしい。授業時間中は、話を聞くべき時には集中して聞き、パソコンを利用して作業をすべき時にはしっかりと作業するというように、その時々で自分が何をすべきかをしっかりと考えながら、メリハリを付けて取り組んで欲しい。学習内容の定着を図るため、課題(宿題)の実施を含め、授業時間と同程度の復習をすることが求められる。グループワーク等には、授業時にスムーズに作業に入れるよう、指示に従って事前の検討(予習)もしておくこと。なお、状況により開講形態が変更になることがあります。その場合「科目のお知らせ」などで告示します。</p> <p>一部授業教材としてオンデマンドコンテンツを用いますので、分からないところは繰り返し視聴し学習しましょう。</p> <p>【本科目の関連科目】情報処理演習Ⅱ</p>				事前	個人 PC の環境設定	2 時間
				事前	Office スキルの確認	3 時間
				事後	復習課題・発展課題への取り組み	15 時間
				事後	授業内演習課題・確認テストの復習・振り返り	10 時間
						時間
						時間
成績評価の方法						
期末試験(筆記・Web・レポート・最終授業内) 0% 授業内でのレポート・課題等 70% その他 30%		適宜行う課題の達成状況等によって評価する。欠席が 1/3 を超える場合は棄権とみなし、単位を与えない。演習・グループワークへの取り組み姿勢も考慮する。定期試験は行わない。				
テキスト						
テキストを利用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> (最初の授業で指示する)		<著者>富士通ラーニングメディア <テキスト名>情報リテラシーアプリ編 Windows11/Office2021 対応 <出版社>富士通ラーニングメディア				

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名					
情報処理演習	2	1	前期開講	西尾真紀子、伴裕子					
テーマ	情報発信力強化のためのソフトウェアの統合的活用スキルの習得								
科目のねらい									
<p>【キーワード】ソフトウェアの統合的活用、数理・データサイエンス・AI、情報発信力、ICTリテラシ、協働学習</p> <p>【内容の要約】あらゆる場面において、人に自分の考えをわかりやすく伝えることは重要である。図やグラフによるわかりやすい資料作成、論理的で説得力のある資料作成は、そのためにも必須となるもの、これらを数理・データサイエンス・AIに関する話題とともに体験的・統合的に学習していく。大学の情報環境、インターネット環境についての理解も深め、学習や各種活動のためのリソースとして活用していくための基礎を築く。</p> <p>【学習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 文書作成、表計算などのソフトウェアを統合的に扱うことができる。 2 インターネットを駆使して、意図する内容を表現することができる。 3 大学の情報環境を活用し、グループで協働して効果的・効率的に作業を進めることができる。 4 数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識を自らの経験や将来と繋げることができる。 									
授業のながれ 授業方法：演習、一部オンデマンドコンテンツを使用します									
1. 学内環境(1)：ガイダンス、履修登録、nfu.jp、Zoom	16.								
2. 学内環境(2)：情報環境の確認	17.								
3. スキルチェック：Officeスキルのチェック	18.								
4. 情報活用(1)：学内情報サービスの正しい利用、メールのルール(オンデマンド)	19.								
5. 数理・データサイエンス・AI(1)：社会で起きている変化とデータの活用	20.								
6. 情報活用(2)：ファイル添付、データの共有と共同編集	21.								
7. 数理・データサイエンス・AI(2)：データの読み方	22.								
8. 数理・データサイエンス・AI(3)：データ・AIの活用領域と現場	23.								
9. 情報活用(3)：AI利活用の調査及び共有	24.								
10. 数理・データサイエンス・AI(4)：データ・AIを扱う上での留意事項と身の守り方	25.								
11. 情報活用(4)：情報セキュリティの最新情報の調査及び共有	26.								
12. 数理・データサイエンス・AI(5)：データの説明方法、複合グラフ	27.								
13. 情報活用(5)：グラフの作成	28.								
14. 数理・データサイエンス・AI(6)：アクセシビリティとAI	29.								
15. まとめ	30.								
準備学習の内容・学ぶ上での注意			事前事後学習						
<p>操作を覚えることではなく、学んだスキルをどのように活用できるかが重要である。活用場面をイメージできるよう、教員からも情報提供を行うが、自分自身でも活用場面を常に意識するようにしてほしい。授業時間中は、話を聞くべき時には集中して聞き、パソコンを利用して作業をすべき時にはしっかりと作業するというように、その時々で自分が何をすべきかをしっかりと考えながら、メリハリを付けて取り組んで欲しい。学習内容の定着を図るため、課題(宿題)の実施を含め、授業時間と同程度の復習をすることが求められる。グループワーク等には、授業時にスムーズに作業に入れるよう、指示に従って事前の検討(予習)もしておくこと。なお、状況により開講形態が変更になることがあります。その場合「科目のお知らせ」などで告示します。</p> <p>一部授業教材としてオンデマンドコンテンツを用いますので、分からないところは繰り返し視聴し学習しましょう。</p> <p>【本科目の関連科目】 -</p>			事前	個人PCの環境設定	2時間				
			事前	Officeスキルの確認	3時間				
			事後	復習課題・発展課題への取り組み	15時間				
			事後	授業内演習課題・確認テストの復習・振り返り	10時間				
					時間				
成績評価の方法									
<table border="0"> <tr> <td>期末試験(筆記・Web・レポート・最終授業内)</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>授業内でのレポート・課題等</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>30%</td> </tr> </table>	期末試験(筆記・Web・レポート・最終授業内)	0%	授業内でのレポート・課題等	70%	その他	30%	適宜行う課題の達成状況等によって評価する。欠席が1/3を超える場合は棄権とみなし、単位を与えない。演習・グループワークへの取り組み姿勢も考慮する。		
期末試験(筆記・Web・レポート・最終授業内)	0%								
授業内でのレポート・課題等	70%								
その他	30%								
テキスト									
テキストを利用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> (最初の授業で指示する)		<著者>富士通ラーニングメディア <テキスト名>情報リテラシーアプリ編 Windows11/Office2021 対応 <出版社>富士通ラーニングメディア							

科目名		単位数	学年配当	開講形態	教員名	
情報処理演習		2	1	前期開講	榎本明美	
テーマ	情報発信力強化のためのソフトウェアの統合的活用スキルの習得					
科目のねらい						
【キーワード】ソフトウェアの統合的活用、数理・データサイエンス・AI、情報発信力、ICTリテラシ、協働学習						
【内容の要約】あらゆる場面において、人に自分の考えをわかりやすく伝えることは重要である。図やグラフによるわかりやすい資料作成、論理的で説得力のある資料作成は、そのためにも必須となるもの、これらを数理・データサイエンス・AIに関する話題とともに体験的・統合的に学習していく。大学の情報環境、インターネット環境についての理解も深め、学習や各種活動のためのリソースとして活用していくための基礎を築く。						
【学習目標】						
1 文書作成、表計算などのソフトウェアを統合的に扱うことができる。						
2 インターネットを駆使して、意図する内容を表現することができる。						
3 大学の情報環境を活用し、グループで協働して効果的・効率的に作業を進めることができる。						
4 数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識を自らの経験や将来と繋げることができる。						
授業のながれ 授業方法：演習、一部オンデマンドコンテンツを使用します						
1. 学内環境(1)：ガイダンス、履修登録、nfu.jp、Zoom		16.				
2. 学内環境(2)：情報環境の確認		17.				
3. スキルチェック：Officeスキルのチェック		18.				
4. 情報活用(1)：学内情報サービスの正しい利用、メールのルール(オンデマンド)		19.				
5. 数理・データサイエンス・AI(1)：社会で起きている変化とデータの活用		20.				
6. 情報活用(2)：ファイル添付、データの共有と共同編集		21.				
7. 数理・データサイエンス・AI(2)：データの読み方		22.				
8. 数理・データサイエンス・AI(3)：データ・AIの活用領域と現場		23.				
9. 情報活用(3)：AI利活用の調査及び共有		24.				
10. 数理・データサイエンス・AI(4)：データ・AIを扱う上での留意事項と身の守り方		25.				
11. 情報活用(4)：情報セキュリティの最新情報の調査及び共有		26.				
12. 数理・データサイエンス・AI(5)：データの説明方法、複合グラフ		27.				
13. 情報活用(5)：グラフの作成		28.				
14. 数理・データサイエンス・AI(6)：アクセシビリティとAI		29.				
15. まとめ		30.				
準備学習の内容・学ぶ上での注意				事前事後学習		
<p>操作を覚えるのではなく、学んだスキルをどのように活用できるかが重要である。活用場面をイメージできるように、教員からも情報提供を行うが、自分自身でも活用場面を常に意識するようにしてほしい。授業時間中は、話を聞くべき時には集中して聞き、パソコンを利用して作業をすべき時にはしっかりと作業するというように、その時々で自分が何をすべきかをしっかりと考えながら、メリハリを付けて取り組んで欲しい。学習内容の定着を図るため、課題(宿題)の実施を含め、授業時間と同程度の復習をすることが求められる。グループワーク等には、授業時にスムーズに作業に入れるよう、指示に従って事前の検討(予習)もしておくこと。なお、状況により開講形態が変更になることがあります。その場合「科目のお知らせ」などで告示します。</p> <p>一部授業教材としてオンデマンドコンテンツを用いますので、分からないところは繰り返し視聴し学習しましょう。</p> <p>【本科目の関連科目】 -</p>				事前	個人PCの環境設定	2時間
				事前	Officeスキルの確認	3時間
				事後	復習課題・発展課題への取り組み	15時間
				事後	授業内演習課題・確認テストの復習・振り返り	10時間
						時間
						時間
成績評価の方法						
期末試験(筆記・Web・レポート・最終授業内) 0% 授業内でのレポート・課題等 70% その他 30%		適宜行う課題の達成状況等によって評価する。欠席が1/3を超える場合は棄権とみなし、単位を与えない。演習・グループワークへの取り組み姿勢も考慮する。				
テキスト						
テキストを利用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> (最初の授業で指示する)		<著者>富士通ラーニングメディア <テキスト名>情報リテラシーアプリ編 Windows11/Office2021 対応 <出版社>富士通ラーニングメディア				

科目名		単位数	学年配当	開講形態	教員名	
情報処理演習		2	1	前期開講	榎本明美	
テーマ	情報発信力強化のためのソフトウェアの統合的活用スキルの習得					
科目のねらい						
<p>【キーワード】ソフトウェアの統合的活用、数理・データサイエンス・AI、情報発信力、ICTリテラシ、協働学習</p> <p>【内容の要約】あらゆる場面において、人に自分の考えをわかりやすく伝えることは重要である。図やグラフによるわかりやすい資料作成、論理的で説得力のある資料作成は、そのためにも必須となるもの、これらを数理・データサイエンス・AIに関する話題とともに体験的・統合的に学習していく。大学の情報環境、インターネット環境についての理解も深め、学習や各種活動のためのリソースとして活用していくための基礎を築く。</p> <p>【学習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 文書作成、表計算などのソフトウェアを統合的に扱うことができる。 2 インターネットを駆使して、意図する内容を表現することができる。 3 大学の情報環境を活用し、グループで協働して効果的・効率的に作業を進めることができる。 4 数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識を自らの経験や将来と繋げることができる。 						
授業のながれ 授業方法：演習、一部オンデマンドコンテンツを使用します						
1. 学内環境(1)：ガイダンス、履修登録、nfu.jp、Zoom				16.		
2. 学内環境(2)：情報環境の確認				17.		
3. スキルチェック：Officeスキルのチェック				18.		
4. 情報活用(1)：学内情報サービスの正しい利用、メールのルール(オンデマンド)				19.		
5. 数理・データサイエンス・AI(1)：社会で起きている変化とデータの活用				20.		
6. 情報活用(2)：ファイル添付、データの共有と共同編集				21.		
7. 数理・データサイエンス・AI(2)：データの読み方				22.		
8. 数理・データサイエンス・AI(3)：データ・AIの活用領域と現場				23.		
9. 情報活用(3)：AI利活用の調査及び共有				24.		
10. 数理・データサイエンス・AI(4)：データ・AIを扱う上での留意事項と身の守り方				25.		
11. 情報活用(4)：情報セキュリティの最新情報の調査及び共有				26.		
12. 数理・データサイエンス・AI(5)：データの説明方法、複合グラフ				27.		
13. 情報活用(5)：グラフの作成				28.		
14. 数理・データサイエンス・AI(6)：アクセシビリティとAI				29.		
15. まとめ				30.		
準備学習の内容・学ぶ上での注意				事前事後学習		
<p>操作を覚えるのではなく、学んだスキルをどのように活用できるかが重要である。活用場面をイメージできるように、教員からも情報提供を行うが、自分自身でも活用場面を常に意識するようにしてほしい。授業時間中は、話を聞くべき時には集中して聞き、パソコンを利用して作業をすべき時にはしっかりと作業するというように、その時々で自分が何をすべきかをしっかりと考えながら、メリハリを付けて取り組んで欲しい。学習内容の定着を図るため、課題(宿題)の実施を含め、授業時間と同程度の復習をすることが求められる。グループワーク等には、授業時にスムーズに作業に入れるよう、指示に従って事前の検討(予習)もしておくこと。なお、状況により開講形態が変更になることがあります。その場合「科目のお知らせ」などで告示します。</p> <p>一部授業教材としてオンデマンドコンテンツを用いますので、分からないところは繰り返し視聴し学習しましょう。</p> <p>【本科目の関連科目】 -</p>				事前	個人PCの環境設定	2時間
				事前	Officeスキルの確認	3時間
				事後	復習課題・発展課題への取り組み	15時間
				事後	授業内演習課題・確認テストの復習・振り返り	10時間
						時間
						時間
成績評価の方法						
期末試験(筆記・Web・レポート・最終授業内) 0% 授業内でのレポート・課題等 70% その他 30%		適宜行う課題の達成状況等によって評価する。欠席が1/3を超える場合は棄権とみなし、単位を与えない。演習・グループワークへの取り組み姿勢も考慮する。				
テキスト						
テキストを利用する <input checked="" type="checkbox"/> レジュメを使用する <input type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> (最初の授業で指示する)		<著者>富士通ラーニングメディア <テキスト名>情報リテラシーアプリ編 Windows11/Office2021 対応 <出版社>富士通ラーニングメディア				

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名						
情報処理演習	2	1	前期開講	榎本明美						
テーマ	情報発信力強化のためのソフトウェアの統合的活用スキルの習得									
科目のねらい										
<p>【キーワード】ソフトウェアの統合的活用、数理・データサイエンス・AI、情報発信力、ICTリテラシ、協働学習</p> <p>【内容の要約】あらゆる場面において、人に自分の考えをわかりやすく伝えることは重要である。図やグラフによるわかりやすい資料作成、論理的で説得力のある資料作成は、そのためにも必須となるもの、これらを数理・データサイエンス・AIに関する話題とともに体験的・統合的に学習していく。大学の情報環境、インターネット環境についての理解も深め、学習や各種活動のためのリソースとして活用していくための基礎を築く。</p> <p>【学習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 文書作成、表計算などのソフトウェアを統合的に扱うことができる。 2 インターネットを駆使して、意図する内容を表現することができる。 3 大学の情報環境を活用し、グループで協働して効果的・効率的に作業を進めることができる。 4 数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識を自らの経験や将来と繋げることができる。 										
授業のながれ 授業方法：演習、一部オンデマンドコンテンツを使用します										
1. 学内環境(1)：ガイダンス、履修登録、nfu.jp、Zoom	16.									
2. 学内環境(2)：情報環境の確認	17.									
3. スキルチェック：Officeスキルのチェック	18.									
4. 情報活用(1)：学内情報サービスの正しい利用、メールのルール(オンデマンド)	19.									
5. 数理・データサイエンス・AI(1)：社会で起きている変化とデータの活用	20.									
6. 情報活用(2)：ファイル添付、データの共有と共同編集	21.									
7. 数理・データサイエンス・AI(2)：データの読み方	22.									
8. 数理・データサイエンス・AI(3)：データ・AIの活用領域と現場	23.									
9. 情報活用(3)：AI利活用の調査及び共有	24.									
10. 数理・データサイエンス・AI(4)：データ・AIを扱う上での留意事項と身の守り方	25.									
11. 情報活用(4)：情報セキュリティの最新情報の調査及び共有	26.									
12. 数理・データサイエンス・AI(5)：データの説明方法、複合グラフ	27.									
13. 情報活用(5)：グラフの作成	28.									
14. 数理・データサイエンス・AI(6)：アクセシビリティとAI	29.									
15. まとめ	30.									
準備学習の内容・学ぶ上での注意			事前事後学習							
<p>操作を覚えることではなく、学んだスキルをどのように活用できるかが重要である。活用場面をイメージできるよう、教員からも情報提供を行うが、自分自身でも活用場面を常に意識するようにしてほしい。授業時間中は、話を聞くべき時には集中して聞き、パソコンを利用して作業をすべき時にはしっかりと作業するというように、その時々で自分が何をすべきかをしっかりと考えながら、メリハリを付けて取り組んで欲しい。学習内容の定着を図るため、課題(宿題)の実施を含め、授業時間と同程度の復習をすることが求められる。グループワーク等には、授業時にスムーズに作業に入れるよう、指示に従って事前の検討(予習)もしておくこと。なお、状況により開講形態が変更になることがあります。その場合「科目のお知らせ」などで告示します。</p> <p>一部授業教材としてオンデマンドコンテンツを用いますので、分からないところは繰り返し視聴し学習しましょう。</p> <p>【本科目の関連科目】 -</p>			事前	個人PCの環境設定	2時間					
			事前	Officeスキルの確認	3時間					
			事後	復習課題・発展課題への取り組み	15時間					
			事後	授業内演習課題・確認テストの復習・振り返り	10時間					
					時間					
					時間					
成績評価の方法										
<table border="0"> <tr> <td>期末試験(筆記・Web・レポート・最終授業内)</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>授業内でのレポート・課題等</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>30%</td> </tr> </table>	期末試験(筆記・Web・レポート・最終授業内)	0%	授業内でのレポート・課題等	70%	その他	30%	適宜行う課題の達成状況等によって評価する。欠席が1/3を超える場合は棄権とみなし、単位を与えない。演習・グループワークへの取り組み姿勢も考慮する。			
期末試験(筆記・Web・レポート・最終授業内)	0%									
授業内でのレポート・課題等	70%									
その他	30%									
テキスト										
<input checked="" type="checkbox"/> テキストを利用する <input type="checkbox"/> レジューメを使用する <input type="checkbox"/> 未定(最初の授業で指示する)	<著者>富士通ラーニングメディア <テキスト名>情報リテラシーアプリ編 Windows11/Office2021対応 <出版社>富士通ラーニングメディア									

科目名	単位数	学年配当	開講形態	教員名	
情報処理	2	1	後期開講	小林信子（第1講～第10講）、鈴木隆弘（第11講～第15講）	
テーマ	情報発信力強化のためのソフトウェアの統合的活用スキルの習得およびITストラテジー系分野の計算問題の習得				
科目のねらい					
<p>【キーワード】ソフトウェアの統合的活用、数理・データサイエンス・AI、情報発信力、ICTリテラシ、ITストラテジー</p> <p>【内容の要約】あらゆる場面において、人に自分の考えをわかりやすく伝えることは重要である。図やグラフによるわかりやすい資料作成、論理的で説得力のある資料作成は、そのためにも必須となるもの、これらを数理・データサイエンス・AIに関する話題とともに体験的・統合的に学習していく。大学の情報環境、インターネット環境についての理解も深め、学習や各種活動のためのリソースとして活用していくための基礎を築く。さらに、最後の5回はITパスポート試験のストラテジー分野の計算問題を学習する。</p> <p>【学習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 インターネットを駆使して、意図する内容を表現することができる。 2 大学の情報環境を活用し、グループで協働して効果的・効率的に作業を進めることができる。 3 数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識を自らの経験や将来と繋げることができる。 4 ITパスポート試験のストラテジー分野の計算問題を解くことができる。 					
授業のながれ 授業方法：演習、一部オンデマンドコンテンツを使用します					
1. 情報活用(1)：ガイダンス、学内情報サービスの正しい利用、メールのルール	16.				
2. 数理・データサイエンス・AI(1)：社会で起きている変化とデータの活用、自らへの影響レポート	17.				
3. 情報活用(2)：ファイル添付、データの共有と共同編集	18.				
4. 数理・データサイエンス・AI(2)：データの読み方	19.				
5. 数理・データサイエンス・AI(3)：データ・AIの活用領域と現場、AI利活用の調査	20.				
6. 数理・データサイエンス・AI(4)：データ・AIを扱う上での留意事項と身の守り方、情報セキュリティの最新情報の調査	21.				
7. 情報活用(3)：AI利活用及び情報セキュリティの最新情報の共有	22.				
8. 数理・データサイエンス・AI(5)：データの説明方法、複合グラフ	23.				
9. 情報活用(4)：グラフの作成	24.				
10. 数理・データサイエンス・AI(6)：アクセシビリティとAI、アクセシビリティ機能についての調査	25.				
11. 日程計画	26.				
12. 線形計画	27.				
13. 在庫管理・ゲーム理論	28.				
14. 会計と財務	29.				
15. ストラテジー分野の計算問題のテスト	30.				
準備学習の内容・学ぶ上での注意			事前事後学習		
<p>操作を覚えることではなく、学んだスキルをどのように活用できるかが重要である。活用場面をイメージできるように、教員からも情報提供を行うが、自分自身でも活用場面を常に意識するようにしてほしい。授業時間中は、話を聞くべき時には集中して聞き、パソコンを利用して作業をすべき時にはしっかりと作業するというように、その時々で自分が何をすべきかをしっかりと考えながら、メリハリを付けて取り組んで欲しい。学習内容の定着を図るため、課題（宿題）の実施を含め、授業時間と同程度の復習をすることが求められる。グループワーク等には、授業時にスムーズに作業に入れるよう、指示に従って事前の検討（予習）もしておくこと。なお、状況により開講形態が変更になることがあります。その場合「科目のお知らせ」などで告示します。最後の5回の授業は、月曜日の3時限目に授業時間が変わるので注意すること。ストラテジー分野の計算問題については、復習を行うとともに課題を提出する必要がある。最終回にテストを行う。一部授業教材としてオンデマンドコンテンツを用いますので、分からないところは繰り返し視聴し学習しましょう。</p> <p>【本科目の関連科目】 -</p>			事後	授業内演習課題・確認テストの復習・振り返り	30時間
					時間
成績評価の方法					
期末試験（筆記・Web・レポート・最終授業内） 0% 授業内でのレポート・課題等 70% その他 30%	適宜行う課題の達成状況等によって評価する。欠席が1/3を超える場合は棄権とみなし、単位を与えない。演習・グループワークへの取り組み姿勢も考慮する。定期試験は行わない。ストラテジー分野の計算問題については、毎週の授業の課題と最終回のテストで行う。				
テキスト					
テキストを利用する <input type="checkbox"/> レジューメを使用する <input checked="" type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> （最初の授業で指示する）					

社会福祉学部

Faculty of Social Welfare

学部ガイド2023

STUDY GUIDE 2023

社会福祉学科

◆◆◆

Department of Social Welfare

2023年度 社会福祉学部カリキュラム

(2023年度新入学生・2024年度2年次編
転入学生・2025年度3年次編転入学生)

期次	総合基礎科目	専門科目		自由科目(資格科目等を含む)		5-37-47-48-7-5
		【 】はその専修の履修モデル(選択科目)であり他専修も履修可能	【 】は必修	必修科目	履修科目	
1年	総合演習 4	【全専修 共通】	【全専修 共通】			
	漢字 2	□ 社会福祉論Ⅰ	□ 社会福祉論Ⅰ			
	日本語書法 2	□ 社会福祉論Ⅱ	□ 社会福祉論Ⅱ			
	哲学 2	□ 社会福祉論Ⅲ	□ 社会福祉論Ⅲ			
	社会学 2	□ 社会福祉論Ⅳ	□ 社会福祉論Ⅳ			
	心理学 2	□ 社会福祉論Ⅴ	□ 社会福祉論Ⅴ			
	社会福祉入門 2	□ 社会福祉論Ⅵ	□ 社会福祉論Ⅵ			
	ライフデザイン入門 2	□ 社会福祉論Ⅶ	□ 社会福祉論Ⅶ			
	ボランティア論 2	□ 社会福祉論Ⅷ	□ 社会福祉論Ⅷ			
	キャリア形成支援Ⅰ 2	□ 社会福祉論Ⅸ	□ 社会福祉論Ⅸ			
2年	総合基礎科目 小計 71	総合基礎科目 小計 71	専門科目 小計 31	教職課程科目 小計 0	保育課程科目 小計 0	SS科目 小計 0
	キャリア形成支援Ⅱ 2	【全専修 共通】	【全専修 共通】			
	キャリア形成支援Ⅲ 2	□ ソーシャルワークの基礎と専門Ⅰ	□ ソーシャルワークの基礎と専門Ⅰ			
	キャリア形成支援Ⅳ 2	□ ソーシャルワークの基礎と専門Ⅱ	□ ソーシャルワークの基礎と専門Ⅱ			
	キャリア形成支援Ⅴ 2	□ ソーシャルワークⅠ	□ ソーシャルワークⅠ			
	キャリア形成支援Ⅵ 2	□ ソーシャルワークⅡ	□ ソーシャルワークⅡ			
	キャリア形成支援Ⅶ 2	□ 社会福祉論Ⅹ	□ 社会福祉論Ⅹ			
	キャリア形成支援Ⅷ 2	□ 地域福祉論Ⅰ	□ 地域福祉論Ⅰ			
	キャリア形成支援Ⅸ 2	□ 障害者福祉論	□ 障害者福祉論			
	キャリア形成支援Ⅹ 2	□ キャリアデザイン基礎	□ ソーシャルワーク演習Ⅰ			
3年	総合基礎科目 小計 8	総合基礎科目 小計 8	専門科目 小計 99	教職課程科目 小計 10	保育課程科目 小計 11	SS科目 小計 4
	キャリア形成支援Ⅺ 2	【全専修 共通】	【全専修 共通】			
	キャリア形成支援Ⅻ 2	□ 社会福祉論Ⅺ	□ 社会福祉論Ⅺ			
	キャリア形成支援Ⅼ 2	□ 社会福祉論Ⅻ	□ 社会福祉論Ⅻ			
	キャリア形成支援Ⅽ 2	□ 社会福祉論Ⅼ	□ 社会福祉論Ⅼ			
	キャリア形成支援Ⅾ 2	□ 社会福祉論Ⅽ	□ 社会福祉論Ⅽ			
	キャリア形成支援Ⅿ 2	□ 社会福祉論Ⅾ	□ 社会福祉論Ⅾ			
	キャリア形成支援ⅰ 2	□ 社会福祉論Ⅿ	□ 社会福祉論Ⅿ			
	キャリア形成支援ⅱ 2	□ 社会福祉論ⅰ	□ 社会福祉論ⅰ			
	キャリア形成支援ⅲ 2	□ 社会福祉論ⅲ	□ 社会福祉論ⅲ			

●:必修科目、○:全員履修科目、※:隔年で開講する科目
資格対応科目 → 網掛け(社会福祉士科目、○:精神保健福祉士科目、☆:教職(高校福祉)科目、▼:保育士科目、§:37-47-48-7-5科目、資格科目)科目、資格科目:当該課程登録者のみ履修可
※:各種資格については、必ず該当する資格ページを合わせて確認してください。

経 済 学 部

Faculty of Economics

学部ガイド2023

STUDY GUIDE 2023

経済学科

◆ ◆ ◆

Department of Economics

d. 2023 年度経済学部開講科目表

● 経済学部カリキュラム表《2019 年度以降新入学生》

学年	総合基礎科目	専門科目	資格科目及び資格換自科目 教職課程	
1	<p>日本の歴史(4) 法と社会(日本国憲法)(4) 社会学(2) 法と人権(2) 心理学(2) 政治学(2) 現代のアジア(2) 情報と社会(2) ※情報処理演習Ⅰ(2) ※情報処理演習Ⅱ(2) 健康・スポーツⅠ(2) スポーツと地域社会(2) ★英語コミュニケーションⅠ(1) ★英語コミュニケーションⅡ(1) ★英語コミュニケーションⅢ(1) ★英語コミュニケーションⅣ(1) ※地域社会と共生(2) ※卒業演習(2) ※基礎演習Ⅰ(2) 日本語表現Ⅰ(1) 日本語表現Ⅱ(1) 日本語表現Ⅲ(1) 日本語表現Ⅳ(1)</p> <p>◆単位認定科目◆ 数学入門(4) 海外事情研究(4) キャリア形成Ⅰ(2) キャリア形成Ⅱ(2) キャリア形成Ⅲ(2) キャリア形成Ⅳ(2) 海外フィールドワークⅠ(2) 海外フィールドワークⅡ(2) 海外フィールドワークⅢ(4) 海外フィールドワークⅣ(4) 英語Ⅰ(2) 英語Ⅱ(2) 英語Ⅲ(2) ローカルフィールドワークⅠ(1) ローカルフィールドワークⅡ(1) ローカルフィールドワークⅢ(1) ローカルフィールドワークⅣ(1)</p> <p>■全学教育センター科目(総合基礎科目) 日本福祉大学の歴史(2) 知多学(2) ここからからだ(2) ★学部の総合基礎科目として卒業単位に算入されます 福祉社会入門(2) 視覚障害者支援論(2) ろう文化と手話(2) 法入門(2) 地震と減災社会(2) 聴覚障害者の理解と支援(1) ふくしとフィールドワーク(2) スポーツ・文化特講Ⅰ(1) スポーツ・文化特講Ⅱ(1) 海外英語研修</p> <p>【外国人留学生特例科目】 (1～2年) 日本語Ⅰ(Ⅰ)、Ⅱ(Ⅰ) 日本語Ⅱ(Ⅰ)、Ⅲ(Ⅰ) 日本語Ⅳ(Ⅰ)、Ⅴ(Ⅰ) 日本語Ⅵ(Ⅰ)、Ⅶ(Ⅰ) 日本語Ⅷ(Ⅰ)、Ⅷ(Ⅰ)</p>	<p>★経済学(4) ◆経営学(4) ◆会計学(4) ◆現代の医療と福祉(4) (注3)政策形成実践特講Ⅰ</p> <p>□経済史Ⅰ(2) □経済史Ⅱ(2) □統計学Ⅰ(2) ★経済経営のための数学(2) 簿記入門Ⅰ(ペーパード) (2) 簿記入門Ⅱ(ルーニング) (2) パーソナルファイナンス(2)</p> <p>◆単位認定科目◆ 簿記(初級)(2) 簿記(中級)(2) 簿記(上級)(2)</p>		
2	<p>外国の歴史(4) 健康・スポーツⅡ(2) 外書講読(2) 哲学・倫理学(2) キャリアプランニングⅠ(2) ※基礎演習Ⅱ(2) インターンシップⅠ(1) インターンシップⅡ(2) 宗教学(2) 日本史特講(2) 日本語表現Ⅴ(1) 日本語表現Ⅵ(1) 日本語表現Ⅶ(1) 日本語表現Ⅷ(1)</p> <p>◆単位認定科目◆ インターンシップⅢ(1) インターンシップⅣ(2)</p> <p>■全学教育センター科目(総合基礎科目):2年次科目 福祉の力(2) コミュニケーション力演習(2) 知多半島のふくし(2) ふくしと減災コミュニティ(2) ★学部の総合基礎科目として卒業単位に算入されます</p> <p>◆単位認定科目◆ 国内留学フィールドスタディⅠ(1) 国内留学フィールドスタディⅡ(1) 国内留学フィールドスタディⅢ(1)</p>	<p>□財政学(4) □金融論(4) ◆ロマックロ経済学(4) ◆ミクロ経済学(4) ◆法律学(4) ※専門演習Ⅰ(2) 地域研究プロジェクトⅠ(2)</p> <p>□民法(4) □統計学Ⅱ(2) 証券論(2) マーケティング(4) 人材マネジメント(4) 高齢社会論(2)</p> <p>行政法(4) □地域経済論(4) 社会調査概論(2) 社会調査法Ⅰ(2) 社会調査法Ⅱ(2) 地域研究(4) 国際経済(4) □アジア経済論(2)</p> <p>財務会計(2) 医療経済(2) 医学概論(2) 医療経営特別講義(2) 医療福祉社会計(4) □経営戦略(4)</p>	<p>■自由科目 ビジネススキル(2) (インターンシップⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを履修するには ビジネススキルを修得していることが条件となります)</p> <p>ー自由科目についてー ①卒業単位には算入されません。 ②履修単位上限の対象外となります。</p>	<p>教育と発達心理学(中高)(2) 教育制度論(中高)(2) 教育課程論(中高)(2) 社会科教育法Ⅰ(2) 社会科教育法Ⅱ(2) 公民科教育法Ⅰ(2) 公民科教育法Ⅱ(2) 地歴科教育法Ⅰ(2) 道徳教育の指導法(中)(2) カウンセリング論B(2) ※削除 総合演習Ⅱ(2)</p>
3	<p>自然地理学(2) 人文地理学(2) 現代教養(2) キャリアプランニングⅡ(2) 地理学・地志を学ぶ(4) 外国史特講(2)</p> <p>■全学教育センター科目(総合基礎科目):3年次科目 ふくしフィールドワーク実践(2) ★学部の総合基礎科目として卒業単位に算入されます</p>	<p>□社会政策(4) 社会保険論(4) 専門演習Ⅱ(2) 専門演習Ⅲ(2) 地域研究プロジェクトⅡ(2) (注3)政策形成実践特講Ⅱ</p> <p>環境経済学(4) 公共経済学Ⅰ(2) 公共経済学Ⅱ(2) 労働経済学(4) 経営者特別講義(2) □企業法Ⅰ(会社法)(2) □企業法Ⅱ(独禁法・金融商品取引法)(2) □労働法(4) 産業組織論(4) 憲法決定論(2) 計量経済学Ⅰ(2) 計量経済学Ⅱ(2) 現代経済特別講義(2) □消費者法(2) 経営組織(4)</p>	<p>都市経済学Ⅰ(2) 都市経済学Ⅱ(2) 地方行政Ⅰ(財政)(2) 地方行政Ⅱ(行政)(2) 地域金融(2)</p> <p>管理会計(2) □ベンチャー経営(2) 医療福祉経営論(4) 医療情報管理(2) 医療福祉関係法(2)</p>	<p>社会科教育法Ⅲ(2) 社会科教育法Ⅳ(2) 地歴科教育法Ⅱ(2) 特別活動方法論(中高)(2) (注1)教育方法論(中高)(2) (注2)教育方法論(中高)(情報通信技術の活用含む)(2) 生徒・進路指導論(中高)(2) 教育相談の基礎と方法(中高)(2) 教育実習Ⅰ(中高・事前事後)(1) 特別支援教育概論(中高)(2) 総合的な学習の時間の指導法(中高)(2)</p>
4		<p>★経済とビジネス(2) 専門演習Ⅳ(2) 専門演習Ⅴ(2) 卒業論文(4)</p>		<p>教育実習Ⅰ(中高・事前事後) 教育実習Ⅱ(中高)(4) 教育実習Ⅲ(中高)(2) 教職実践演習(中高)(2)</p>

★ 必修科目(卒業するために必ず修得しなければならない科目)
◆ 5科目中2科目選択必修(卒業するために5科目のうち2科目を修得しなければならない科目)
※ 全員履修科目(全員が履修しなければならない科目)
□ 「経済とビジネス」履修推奨科目(必修科目の「経済とビジネス」の内容に関連する科目。4年生進級までに履修しておくことが望ましい。)

資格科目: 課程履修者のみ履修可
*: 卒業単位へ算入される科目
(注1) 2019年度～2021年度入学生対象
(注2) 2022年度以降の入学生対象
(注3) 2023年度以降の入学生対象

教 育 ・ 心 理 学 部

Faculty of Education and Psychology

学部ガイド2023

STUDY GUIDE 2023

子ども発達学科

保育・幼児教育専修

学校教育専修

(学校教育コース/特別支援教育コース)

心理学科

◆◆◆

Department of Child Development

Early Childhood Education and Care Program

School Education Program

(School Education Course/Special Support Education Course)

Department of Psychology

2023年度 1年入学生用

2. カリキュラム表

(1) 子ども発達学科 保育・幼児教育専修

	総合基礎科目		専門科目	
1年	スポーツ実技(2) フレッシュマンインク*リッシュ I-1(1) フレッシュマンインク*リッシュ I-2(1) フレッシュマンインク*リッシュ II-1(1) フレッシュマンインク*リッシュ II-2(1) 情報処理演習 I (2) 情報処理演習 II (2) 言語と文化 I (1) 言語と文化 II (1) 海外フィールドワーク(4) 福祉社会入門(2)※ 日本福祉大学の歴史(2)※ 知多学(2)※ ヒューマンのための多職種連携(2)※ 人間発達学 A(2)	保育実践入門(2) 教育実践入門(2) 障害学入門(2) 思春期のセクシャリティ(2) 心理学概論(2) 自然科学の世界(2) 社会科学の世界(2) 人文科学の世界(2) 総合演習 I (2) ジェンダー論(2) 人間発達学 B(2) 市民社会の諸問題(2) 日本国憲法(2) スポーツと文化(2) 総合演習 II (2)	保育原理 I (2) 教育原理 (幼保) (2) 教育と発達の心理学 (幼保) (2) 保育職論(2) 社会福祉論(2) 保育・教育課程論(2) 保育内容演習(2) 乳幼児と音楽 (演習) (2) 乳幼児と健康 (演習) (2) からだと健康 (保育内容A) (2) 発達と言葉 (保育内容D) (2) 子どもの保健(2) 乳児保育論(2)	
2年	福祉の力(2)※ 文章作成力演習(2)※ 保育学基礎演習(2)		保育原理 II (2) 保育・教育制度論(2) 保育方法論 I (2) 保育方法論 II (2) 特別支援教育概論 (幼) (2) 子ども家庭福祉論 I (2) 子ども家庭福祉論 II (2) 社会的養護(2) 乳幼児と造形 (演習) (2) 乳幼児と人間関係(2)	感性と表現 (保育内容E) (2) 音楽表現(2) 身体表現(2) 子どもの食と栄養演習(2) 子ども家庭支援の心理学(2) 子どもの理解と援助(1) 乳児保育演習(2) 子どもの健康と安全(1) 子育て支援演習(2) 保育実習 I A (保育所) (2) 保育実習指導 I A (保育所) (1)
3年			子ども家庭支援論(2) 教育福祉論(2) 障害者論(2) 乳幼児と言葉 (演習) (2) 乳幼児と環境(2) 仲間と交わり (保育内容B) (2) 生活と環境 (保育内容C) (2) 造形表現(2) 子ども理解の理論と方法(1) 教育・臨床相談の基礎演習(1) 障害児保育演習(2)	ソーシャルワーク演習(1) 社会的養護内容演習(1) 教育実習 I (幼・事前事後) (0) 保育実習 I B (施設) (2) 保育実習指導 I B (施設) (1) 保育実習 II (保育所) (2) 保育実習指導 II (保育所) (1) 保育実習 III (施設) (2) 保育実習指導 III (施設) (1) 子ども発達学専門演習 I (4)
4年	アダプテッド・スポーツ(2)		学童保育論(2) 保育カンファレンス演習(1) 教育実習 I (幼・事前事後) (1) 教育実習 II (幼) (4) 保育・教職実践演習(2) 子ども発達学専門演習 II (4)	

※印は、全学教育センター開講科目

自由科目	
2年	ビジネススキル (2) インターンシップⅢ (1) インターンシップⅣ (2)

外国人留学生特例科目	
1年	日本語と文化 I-1 (1) 日本語と文化 I-2 (1) 日本語と文化 II-1 (1) 日本語と文化 II-2 (1)
2年	日本語と文化Ⅲ-1 (1) 日本語と文化Ⅲ-2 (1) 日本語と文化Ⅳ-1 (1) 日本語と文化Ⅳ-2 (1)

(2) 子ども発達学科 学校教育専修 学校教育コース

	総合基礎科目		専門科目	
1年	スポーツ実技(2) フレッシュマンインク®リッシュ I-1(1) フレッシュマンインク®リッシュ I-2(1) フレッシュマンインク®リッシュ II-1(1) フレッシュマンインク®リッシュ II-2(1) 情報処理演習 I (2) 情報処理演習 II (2) 言語と文化 I (1) 言語と文化 II (1) 海外フィールドワーク(4) 福祉社会入門(2)※ 日本福祉大学の歴史(2)※ 知多学(2)※ ヒューマンのための多職種連携(2)※ 人間発達学 A(2)	保育実践入門(2) 教育実践入門(2) 障害学入門(2) 思春期のセクシャリティ(2) 心理学概論(2) 自然科学の世界(2) 社会科学の世界(2) 人文科学の世界(2) 総合演習 I (2) ジェンダー論(2) 人間発達学 B(2) 市民社会の諸問題(2) 日本国憲法(2) スポーツと文化(2) 総合演習 II (2)	教職入門(2) 教育と発達の心理学(2) 教育原理(2) 教育制度論(2) 特別支援教育概論(2) 教育課程論(2) 家族社会学(2) 社会福祉論(2)	
2年	福祉の力(2)※ 文章作成力演習(2)※ 教育学基礎演習(2)		教育方法論(情報通信技術の活用含む)(2) 生徒・進路指導論(2) 国語科研究(2) 社会科研究(2) 算数科研究(2) 音楽専門研究 I (2) 造形専門研究 I (2) スポーツ専門研究 I (2) 理科研究(2) 生活科研究(2) 家庭科研究(2) 外国語研究(2) 日本史概論(2) 外国史概論(2) 地理学概論(2) 法学概論(2)	政治学概論(2) 社会学概論(2) 経済学概論(2) 哲学概論(2) 子ども家庭福祉論 I (2) 子ども家庭福祉論 II (2) 学校福祉論(2) 学校教育演習(2) 国語科教育法(2) 社会科教育法(2) 図画工作教育法(2) 音楽科教育法(2) 体育科教育法(2) 中等社会科教育法 A(2) 教職インターンシップ I (2)
3年			道徳教育の理論と方法(2) 特別活動方法論(2) 教育相談の基礎と方法(2) 特別ニーズ教育論(2) 日本史特講(2) 近現代史(2) 自然地理学(2) 人文地理学(2) 政治学特講(2) 法学特講(2) 社会学特講(2) 経済学特講(2) 哲学特講(2) 倫理学概論(2) 宗教学概論(2)	教育福祉論(2) 子ども発達学専門演習 I (4) 算数科教育法(2) 理科教育法(2) 生活科教育法(2) 家庭科教育法(2) 外国語教育法(2) 総合的な学習の時間の指導法(2) 中等社会科教育法 B(2) 中等社会科教育法 C(2) 中等社会科教育法 D(2) 教育実習 I (小・事前事後) (1) 教育実習 II (小) (4) 教育実習 I (中・事前事後) (0)
4年	アダプテッド・スポーツ(2)		倫理学特講(死生学)(2) 司法福祉論(2) 学童保育論(2) 子ども発達学専門演習 II (4) 音楽専門研究 II (2)	造形専門研究 II (2) スポーツ専門研究 II (2) 教育実習 I (中・事前事後) (1) 教育実習 II (中) (4) 教職インターンシップ II (2) 教職実践演習(小中)(2)

※印は、全学教育センター開講科目

自由科目	
2年	ビジネススキル (2) インターンシップⅢ (1) インターンシップⅣ (2)

外国人留学生特例科目	
1年	日本語と文化 I-1 (1) 日本語と文化 I-2 (1) 日本語と文化 II-1 (1) 日本語と文化 II-2 (1)
2年	日本語と文化Ⅲ-1 (1) 日本語と文化Ⅲ-2 (1) 日本語と文化Ⅳ-1 (1) 日本語と文化Ⅳ-2 (1)

(3) 子ども発達学科 学校教育専修 特別支援教育コース

	総合基礎科目		専門科目	
1年	スポーツ実技(2) フレッシュマンインク®リッシュ I -1(1) フレッシュマンインク®リッシュ I -2(1) フレッシュマンインク®リッシュ II -1(1) フレッシュマンインク®リッシュ II -2(1) 情報処理演習 I (2) 情報処理演習 II (2) 言語と文化 I (1) 言語と文化 II (1) 海外フィールドワーク(4) 福祉社会入門(2)※ 日本福祉大学の歴史(2)※ 知多学(2)※ ヒューマンのための多職種連携(2)※ 人間発達学 A(2)	保育実践入門(2) 教育実践入門(2) 障害学入門(2) 思春期のセクシャリティ(2) 心理学概論(2) 自然科学の世界(2) 社会科学の世界(2) 人文科学の世界(2) 総合演習 I (2) ジェンダー論(2) 人間発達学 B(2) 市民社会の諸問題(2) 日本国憲法(2) スポーツと文化(2) 総合演習 II (2)	教職入門(2) 教育と発達の心理学(2) 教育原理(2) 教育制度論(2) 特別支援教育概論(2) 教育課程論(2) 社会福祉論(2) 知的障害児の心理(2)	
2年	福祉の力(2)※ 文章作成力演習(2)※ 教育学基礎演習(2)		教育方法論(情報通信技術の活用含む)(2) 生徒・進路指導論(2) 国語科研究(2) 社会科研究(2) 算数科研究(2) 音楽専門研究 I (2) 造形専門研究 I (2) スポーツ専門研究 I (2) 理科研究(2) 生活科研究(2) 家庭科研究(2) 外国語研究(2) 子ども家庭福祉論 I (2) 子ども家庭福祉論 II (2) 学校福祉論(2) 学校教育演習(2)	国語科教育法(2) 社会科教育法(2) 図画工作教育法(2) 音楽科教育法(2) 体育科教育法(2) 教職インターンシップ I (2) 特別支援教育論(2) 知的障害児教育論(2) 特別支援教育課程論(2) 発達障害児指導法(2) 知的障害児の生理と病理(2) 肢体不自由児の心理(2) 肢体不自由児の生理と病理(2) 視覚・聴覚・病弱児論(2) 発達障害児論(2)
3年			道徳教育の理論と方法(2) 特別活動方法論(2) 教育相談の基礎と方法(2) 特別ニーズ教育論(2) 教育福祉論(2) 子ども発達学専門演習 I (4) 算数科教育法(2) 理科教育法(2) 生活科教育法(2) 家庭科教育法(2) 外国語教育法(2) 総合的な学習の時間の指導法(2)	教育実習 I (小・事前事後) (1) 教育実習 II (小) (4) 知的障害児指導法(2) 肢体不自由児教育論(2) 肢体不自由児指導法(2) 聴覚障害児指導法(2) 重度重複障害児教育論(2) 重度重複障害児指導法(2) 聴覚障害児の心理・生理・病理(2) 病弱児の心理・生理・病理(2) 動作法(2)
4年	アダプテッド・スポーツ(2)		司法福祉論(2) 学童保育論(2) 子ども発達学専門演習 II (4) 音楽専門研究 II (2) 造形専門研究 II (2) スポーツ専門研究 II (2)	教職インターンシップ II (2) 教職実践演習(小中) (2) 障害児教育特論(2) 障害児教育実習 I (事前事後) (1) 障害児教育実習 II (2) 障害児アセスメント演習(2)

※印は、全学教育センター開講科目

自由科目	
2年	ビジネススキル (2) インターンシップ III (1) インターンシップ IV (2)

外国人留学生特例科目	
1年	日本語と文化 I -1 (1) 日本語と文化 I -2 (1) 日本語と文化 II -1 (1) 日本語と文化 II -2 (1)
2年	日本語と文化 III -1 (1) 日本語と文化 III -2 (1) 日本語と文化 IV -1 (1) 日本語と文化 IV -2 (1)

国際福祉開発学部

Faculty of International Welfare Development

学部ガイド2023

STUDY GUIDE 2023

国際福祉開発学科

◆◆◆

Department of International Welfare Development

2. 国際福祉開発学部 教育内容

1) カリキュラム表

1. 2021年カリキュラム表 (2021年度以降入学者用)

* 開講予定は開講科目表で確認

※ () 内は単位数

学年	総合基礎科目	専門基礎科目・専門科目	自由科目(資格検自科目含む)
1年	心理学(2) English Presentation I (2) 社会学(2) English Presentation II (2) 法と社会(日本国憲法)(4) グローバル教養(2) 健康・スポーツ(2) 基礎演習 I (2) アジアのローカル言語と文化(2) 基礎演習 II (2) 英語総合基礎 I (1) 日本語 I (1)*留学生専用 英語総合基礎 II (1) 日本語 II (1)*留学生専用 情報処理演習 I (2) 日本語 III (1)*留学生専用 情報処理演習 II (2) 日本語 IV (1)*留学生専用 国際フィールドワーク I (4) くらしと経済 I (2) 英語コミュニケーション I (1) 英語コミュニケーション II (1)	<専門基礎科目> 国際交流ファシリテーション演習 I (2) 国際交流ファシリテーション演習 II (2) Listening&Reading I (1) Listening&Reading II (1) 国際協力(2) 異文化理解(2) 現代福祉(2) Writing & Communication I (1) Writing & Communication II (1) <専門科目> 英語学概論(2) 日本語学 I (2) 対照言語学(2) 日本語教育概論(2)	【全学教育センター科目】 スポーツ・文化特講 I (2) スポーツ・文化特講 II (2)
	【全学教育センター科目】 法入門(2) 日本福祉大学の歴史(2)<オンデマンド> 地震と被災社会(2)<オンデマンド> 知多学(2)<オンデマンド> 聴覚障害者の理解と支援(1)<ウェブ> ここから来た(2)<オンデマンド> ふくしとフィールドワーク(2)<オンデマンド> 福祉社会入門(2)<オンデマンド> 心のケアのための多職種連携(2)<ウェブ> 視覚障害者支援論(2) ろう文化と手話(2)	<専門基礎科目> アジアの経済社会(2) 国際交流ファシリテーション演習 III (2) 対面コミュニケーション論(2) 国際交流ファシリテーション演習 IV (2) 社会調査(2) Writing & Communication III (2) 環境と開発 I (2) Writing & Communication IV (2) ニュース英語(2) 総合演習 I (2) English Presentation III (2) 総合演習 II (2) English Presentation IV (2) 国際フィールドワーク II (4)<認定> 開発ソーシャルワーク演習 I (2) グローバルキャリアデザイン I (2) 環境と開発 I (2) グローバルキャリアデザイン II (4)	【全学教育センター科目】 ビジネススキル(2)<オンデマンド> 【教職課程(高校・中学校英語科)】 教育原理(中高)(2) 教職入門(中高)(2) 教育制度論(中高)(2) 教育と発達心理学(中高)(2) 教育課程論(中高)(2) 道徳教育の指導法(中)(2) 教育相談の基礎と方法(中高)(2)
2年	国際福祉開発の仕事(2) 日本語 V (1)*留学生専用 くらしと経済 II (2) 日本語 VI (1)*留学生専用 キャリア英語 II (2)<認定> 日本語 VII (1)*留学生専用 キャリア英語 III (2)<認定> 日本語 VIII (1)*留学生専用 キャリア英語 III (2)<認定> Japan Area Studies I (16)<認定> Extensive Reading I (1) *留学生専用 Extensive Reading II (1) 日本語能力 I (2)<認定> 日本語能力 II (2)<認定> IT能力(2)<認定>	<専門基礎科目> コーチング論(2) 日本語学 II (2) メディアデザイン(2) 日本語教育法 I (2)<オンデマンド> 英語総合コミュニケーション I (2) 日本語教育法 II (2)<オンデマンド> 英語総合コミュニケーション II (2) インターンシップ I (2) 観光英語(2) インターンシップ II (2) 情報管理概論(2) インターンシップ III (2)<認定> 福祉社会開発(2) インターンシップ IV (2)<認定> 環境と開発 II (2) 国際フィールドワーク III (2)<認定> 国際開発と障害学(2) 国際フィールドワーク IV (2)<認定> 英語学演習(2) 国際フィールドワーク V (8)<認定> 英語音声学(2) 国際フィールドワーク VI (8)<認定> 英語科教育法 I (2) 国際保健(2) 英語科教育法 II (2) グローバルフィールドインターンシップ I (2)<認定> 第二言語習得(2) グローバルフィールドインターンシップ II (4)<認定>	【全学教育センター科目】 福祉の力(2)<オンデマンド> コミュニケーション力演習(2) 知多半島のふくし(2)<オンデマンド> ふくしと減災コミュニティ(2)<オンデマンド>
	Japan Area Studies II (16)<認定> 【全学教育センター科目】 ふくしフィールドワーク実践(2)	<専門基礎科目> 経営学 I (2) 国際交流ファシリテーション演習 V (2) 経営学 II (2) 開発ソーシャルワーク演習 II (2) ビジネスリテラシー(2) 社会言語学(2) グローバル企業ケーススタディ(2) 専門演習 I (2) 社会企業(2) 専門演習 II (2) ジェンダー論(2) アカデミックライティング(2) ビジネス日本語(2)	【教職課程(高校・中学校英語科)】 特別支援教育概論(中高)(2) 総合的な学習の時間の指導法(中高)(2) 特別活動方法論(中高)(2) 教育方法論(中高)(2) ※2022年度以降入学者は「教育方法論(情報通信技術の活用含む)」(2)に名称変更 生徒・進路指導論(中高)(2) 教育実習 I (中高・事前事後)(1)
3年	【全学教育センター科目】 ふくしフィールドワーク実践(2)	<専門基礎科目> 国際協働インターンシップ(2) NPO/NGO論(2) ネットワークデザイン(2) 参加型のまちづくり(2) 英語文学史(2) 持続可能性教育(2) 英語文学講義 I (2) 開発人類学(2) 英語文学講義 II (2) 国際福祉開発(2)<オンデマンド> 多文化共生論(2) 福祉経営論 I (2) 英語総合コミュニケーション III (2) 福祉経営論 II (2) 英語総合コミュニケーション VI (2) 英語科教育法 III (2) 地域福祉論(2) 英語科教育法 IV (2) 日本の中の多文化(2)<オンデマンド> Intensive Reading I (2) Advanced Writing I (2) 共生社会とデータサイエンス(2)	【全学教育センター科目】 福祉の力(2)<オンデマンド> コミュニケーション力演習(2) 知多半島のふくし(2)<オンデマンド> ふくしと減災コミュニティ(2)<オンデマンド>
		<専門基礎科目> 卒業研究 I (2) 卒業研究 II (2) <専門科目> 卒業論文(2)<認定> Advanced Writing II (2) Intensive Reading II (2)	【教職課程(高校・中学校英語科)】 教育実習 I (中高・事前事後)(0) 教育実習 II (中高)(4) 教育実習 III (中高)(2) 教職実践演習(中高)(2) 日本語教育実習(4)

卒業条件(全カリキュラム)

- 本学部において開講される総合基礎科目から、必修科目を含め30単位以上を修得していること。
<必修科目>4科目8単位修得:「基礎演習 I」(2単位)、「基礎演習 II」(2単位)、「English Presentation I」(2単位)、「English Presentation II」(2単位)
- 本学部において開講される専門基礎科目・専門科目から、必修科目を含め64単位以上を修得していること。
<必修科目>2科目4単位修得:「総合演習 I」(2単位)、「総合演習 II」(2単位)
- 4年生次に4単位以上を修得していること。
- 総合基礎科目と専門基礎科目・専門科目あわせて、総計124単位以上を修得していること。(本学部以外の開講科目の履修により修得した単位を含む)

※第2年次への転部生は、包括認定により、総合基礎科目の必修条件は問わない。
※第3年次への編入生・編入の学生は、包括認定により、総合基礎科目及び「総合演習 I」「総合演習 II」の必修条件は問わない。

(4) 心理学科

	総合基礎科目		専門科目	
1年	スポーツ実技(2) フレッシュマンインク®リッシュ I -1(1) フレッシュマンインク®リッシュ I -2(1) フレッシュマンインク®リッシュ II -1(1) フレッシュマンインク®リッシュ II -2(1) 情報処理演習 I (2) 情報処理演習 II (2) 言語と文化 I (1) 言語と文化 II (1) 海外フィールドワーク (4) 福祉社会入門(2)※ 日本福祉大学の歴史(2)※ 知多学(2)※ ヒューマンのための多職種連携(2)※ 人間発達学 A(2)	保育実践入門(2) 教育実践入門(2) 障害学入門(2) 思春期のセクシャリティ(2) 心理学概論(2) 自然科学の世界(2) 社会科学の世界(2) 人文科学の世界(2) 総合演習 I (2) ジェンダー論(2) 人間発達学 B(2) 市民社会の諸問題(2) 日本国憲法(2) スポーツと文化(2) 総合演習 II (2)	発達心理学(2) 感情・人格心理学(2) 心理学研究法(2) 教育・学校心理学(2) 臨床心理学概論(2) 社会福祉論(2)	
2年	福祉の力(2)※ 文章作成力演習(2)※ 心理学基礎演習(2)		心理データ処理演習(2) 心理学実験(2) 心理学統計法(2) 学習・言語心理学(2) 社会・集団・家族心理学(2) 神経・生理心理学(2) 論文・外書購読(2) コミュニティ心理学(2) 対人関係論(2) 知覚・認知心理学(2) 色彩心理学(2) 心理学的支援法(2) 精神疾患とその治療(2) 学校心理臨床論(2) 神経症と心身症(2) 人体の構造と機能及び疾病(2) 健康・医療心理学(2)	福祉心理学(2) 知的障害児の生理と病理(2) 発達障害児論(2) 肢体不自由児の心理(2) 子ども家庭福祉論 I (2) 子ども家庭福祉論 II (2) 哲学概論(2) 心理学発展演習(2) 心理演習(2) 心理支援演習(2) 臨床心理学演習(2) 心理実習 I (4) 消費者心理学(2) 心理学応用実験(2) インターンシップ I (1) インターンシップ II (2) コミュニケーションスキル演習 I (2)
3年			心理調査概論(2) 児童心理支援論(2) 高齢者心理支援論(2) 心理療法学(2) 心理的アセスメント(2) 司法・犯罪心理学(2) 関係行政論(2) 公認心理師の職責(2) 心理療法学特講(2) 聴覚障害児の心理・生理・病理(2) 障害者・障害児心理学(2)	動作法(2) 教育福祉論(2) 宗教学概論(2) 倫理学概論(2) 心理学専門演習 I (4) 心理実習 II (4) コミュニケーションスキル演習 II (2) 多変量解析(2) 質的データの解析(2) 産業・組織心理学(2) ホスピタリティの心理学(2)
4年	アダブテッド・スポーツ(2)		支援者の心理(2) 死生学(2) 心理学専門演習 II (4) 心理学研究法演習(2)	臨床面接法演習(2) 心理アセスメント演習(2) ビジネス心理学演習(2)

※印は、全学教育センター開講科目

自由科目	
2年	ビジネススキル (2) インターンシップⅢ (1) インターンシップⅣ (2)

外国人留学生特例科目	
1年	日本語と文化 I -1 (1) 日本語と文化 I -2 (1) 日本語と文化 II -1 (1) 日本語と文化 II -2 (1)
2年	日本語と文化Ⅲ-1 (1) 日本語と文化Ⅲ-2 (1) 日本語と文化Ⅳ-1 (1) 日本語と文化Ⅳ-2 (1)

スポーツ科学部

Faculty of Sport Sciences

学部ガイド 2023

STUDY GUIDE 2023

スポーツ科学科

◆◆◆

Department of Sport Sciences

カリキュラム

スポーツ科学部 カリキュラム一覧

このページはスポーツ科学部開講科目一覧となります。各コースの履修モデル(P.12~15)を参考に履修登録しましょう。

年次	総合基礎		専門				自由					
	授業科目の名称	単位	授業科目の名称	単位	区分	授業科目の名称	単位	区分				
1 年 次	ここからだ	2	生理学	2		スポーツ哲学	2	必修	特別支援教育概論(中高)	2	必修	
	視覚障害者支援論	1	スポーツ科学入門	2	必修	スポーツマネジメント	2		教職入門(中高)	2		
	ろう文化と手話	2	スポーツ史	2		スポーツ教育学	2		ビジネススキル	2		
	聴覚障害者の理解と支援	1	スポーツ文化論	2		スポーツキャリア教育	2	全履				
	ふくしとフィールドワーク	2	スポーツビジネス	2		スポーツと脳	2					
	法入門	2	発達発達論(運動発達・認知発達・ことばの発達)	2	全履	スポーツ生理学	2	必修				
	福祉社会入門	2	機能解剖学	2		スポーツ心理学	2					
	知多学	2	認知心理学	2		専門実技(アダプテッド・スポーツ)	1	選必				
	経営学	2	健康管理概論	2		専門実技(野外運動A)	1	選必				
	スポーツ統計学Ⅰ(基礎)	2	学校保健A(小児・精神)	2		専門実技(陸上)	1	選必				
	社会学	2	野外スポーツ論	2		専門実技(バスケットボール)	1	選必				
	哲学	2	スポーツ社会学	2	必修	導入ゼミ	2	必修				
	日本福祉大学の歴史	2	ふくしスポーツ論	2	必修							
	地震と被災社会	2										
	日本国憲法	2										
	フレッシュマンイングリッシュⅠ-1	1	必修									
	フレッシュマンイングリッシュⅡ-1	1	必修									
	情報処理演習Ⅰ	2	必修									
	情報処理演習Ⅱ	2	全履									
	ヒューマンケアのための多職種連携	2										
	スポーツ・文化特講Ⅰ	2										
	スポーツ・文化特講Ⅱ	2										
	海外フィールドワーク	4										
	スポーツ実技	2	必修									
	日本語と文化Ⅰ-1	1	*									
日本語と文化Ⅰ-2	1	*										
日本語と文化Ⅱ-1	1	*										
日本語と文化Ⅱ-2	1	*										
海外英語研修	2											
2 年 次	フレッシュマンイングリッシュⅠ-2	1	障害者スポーツ論	2	必修	知的障害児教育論	2		知的障害児の心理	2		
	フレッシュマンイングリッシュⅡ-2	1	スポーツ倫理学	2		スポーツ科学演習	2	必修	視覚・聴覚・病弱児論	2		
	政治学	2	身体表現・芸術表現論	2		専門実技(器械運動)	1	選必	教育原理(中高)	2		
	福祉の力	2	スポーツ・運動指導者論	2	全履	専門実技(水泳)	1	選必	教育と発達心理学(中高)	2		
	キャリア開発Ⅰ	2	スポーツ医学A(内科系)	2		専門実技(バレーボール)	1	選必	教育制度論(中高)	2		
	コミュニケーション力演習	2	スポーツ栄養学	2		専門実技(柔道)	1	選必	教育課程論(中高)	2		
	経済学	2	コーチング科学	2		専門実技(ダンス)	1	選必	教育相談の基礎と方法(中高)	2		
	文章作成力演習	2	特別支援教育論	2		専門実技(サッカー)	1	選必	知的障害児の生理と病理	2		
	ふくしと被災コミュニティ	2	スポーツ統計学Ⅱ(応用)	2		専門実技(バドミントン)	1	選必	道徳教育の指導法(中高)	2		
	知多半島のふくし	2	スポーツバイオメカニクス	2		専門実技(野外運動B)	1	選必	教育方法論(情報通信技術の活用を含む)(中高)	2		
	日本語と文化Ⅲ-1	1	*	スポーツ人類学	2		スポーツ指導法演習(陸上)	1	選必	特別支援教育課程論	2	
	日本語と文化Ⅲ-2	1	*	地域スポーツ論	2		スポーツ指導法演習(バスケットボール)	1	選必			
	日本語と文化Ⅳ-1	1	*	武道論	2		スポーツ指導法演習(水泳・水中運動)	1	選必			
	日本語と文化Ⅳ-2	1	*	スポーツジェンダー論	2		スポーツ指導法演習(ダンス)	1	選必			
				スポーツ医学B(外科系)	2		保健体育科教育法Ⅰ(授業づくりの基礎理論)	2				
			トレーニング科学	2	必修	保健体育科教育法Ⅱ-A(陸上・器械運動)	2	選必				
			測定・評価	2		スポーツフィールドワークⅠ	2	必修				
			メンタルトレーニング	2								
3 年 次	スポーツイングリッシュⅠ	1	スポーツコミュニケーション	2		専門実技(ソフトボール)	1	選必	総合的な学習の時間の指導法(中高)	2		
	スポーツイングリッシュⅡ	1	スポーツメディア論	2		専門実技(テニス)	1	選必	知的障害児指導法	2		
	生命と環境	2	レクリエーション理論	2		専門実技(卓球)	1	選必	生徒・進路指導論(中高)	2		
	ふくしフィールドワーク実践	2	衛生・公衆衛生学	2		専門実技(剣道)	1	選必	発達障害児論	2		
	キャリア開発Ⅱ	2	学校保健B(学校・救急処置)	2		スポーツ指導法演習(バレーボール)	1	選必	特別活動方法論(中高)	2		
	インターンシップⅠ	1	肢体不自由児の心理	2		スポーツ指導法演習(サッカー)	1	選必	教育実習Ⅰ(中高・事前事後)	1		
	インターンシップⅡ	2	肢体不自由児の生理と病理	2		スポーツ指導法演習(テニス)	1	選必	健康運動特論Ⅰ	2		
				障害者スポーツ指導法演習A	1		スポーツ指導法演習(バドミントン)	1	選必	健康運動特論Ⅲ	1	
				ふくしスポーツ演習	2		スポーツ指導法演習(卓球)	1	選必	健康産業施設現場実習	2	
				スポーツ政策・行政論	2		スポーツ指導法演習(エアロビクス)	1	選必			
				スポーツ法学	2		インクルーシブ体育	2				
				アスレティックリハビリテーション	2		保健体育科教育法Ⅱ-B(球技・水泳)	2	選必			
				加齢学	2		保健体育科教育法Ⅱ-C(武道)	2	選必			
				肢体不自由児指導法	2		保健体育科教育法Ⅱ-D(ダンス・体育理論)	2	選必			
				障害者スポーツ指導法演習B	1		保健体育科教育法Ⅲ(授業づくり)	2				
			コンディショニング演習	2		肢体不自由児教育論	2					
			専門実技(野外運動C)	1	選必	専門演習Ⅰ	2	必修				
			スポーツフィールドワークⅡ-1	2								
			スポーツフィールドワークⅡ-2	2								
4 年 次			スポーツ指導法演習(ゴルフ)	1	選必				教育実習Ⅱ(中高)	4		
			スポーツ指導法演習(レクリエーション・ニュースポーツⅠ)	1	選必				教育実習Ⅲ(中高)	2		
			スポーツ指導法演習(レクリエーション・ニュースポーツⅡ)	1	選必				障害児教育実習Ⅰ(事前事後)	1		
			専門演習Ⅱ	4	必修				障害児教育実習Ⅱ	2		
				スポーツフィールドワークⅡ-1	2				教職実践演習(中高)	2		
			スポーツフィールドワークⅡ-2	2				健康運動特論Ⅱ	2			

*外国人留学生、及び帰国生徒入学試験入学生は「フレッシュマンイングリッシュ」に替えて履修することができる。

※他学部開講科目の一部を2年次から履修することができます。詳しくは「時間割」冊子をご覧ください。

時間割 2023

看 護 学 部

日本福祉大学

2022年度以降入学生対象

	総合基礎科目			専門基礎科目			専門科目					
	授業科目名称	配当 学期	単位 (時間数)	区分	授業科目名称	配当 学期	単位 (時間数)	区分	授業科目名称	配当 学期	単位 (時間数)	区分
1 年次	英語コミュニケーションⅠ	前	1(30)	必	人間の形態と機能Ⅰ	前	2(60)	必	看護学概論(概念・理論・歴史)	前	2(30)	必
	英語コミュニケーションⅡ	前	1(30)	必	人間の形態と機能Ⅱ	後	1(30)	必	看護倫理	前	1(15)	必
	英語コミュニケーションⅢ	後	1(30)	必	生化学	後	1(30)	必	看護管理概論Ⅰ	前	1(15)	必
	英語コミュニケーションⅣ	後	1(30)	必	微生物学	後	1(30)	必	看護技術演習Ⅰ	後	2(60)	必
	基礎ゼミナールⅠ	前	1(30)	必	人間工学	前	1(15)	必	看護技術演習Ⅱ	後	1(30)	必
	基礎ゼミナールⅡ	後	1(30)	必	ストレス心理学	前	1(15)	必	基礎看護学実習Ⅰ	後	1(45)	必
	化学	後	2(30)	必	人間関係論	前	1(15)	必				
	情報処理演習	前	2(30)	全履	病理学	後	1(30)	必				
	健康・スポーツⅠ	前	1(30)	選	疾病論(精神系)	後	1(30)	必				
	健康・スポーツⅡ	後	1(30)	選	健康管理学	後	2(30)	必				
	日本の歴史	通	4(60)	選	社会福祉学	後	2(30)	必				
	心理学	前	2(30)	選	家族社会学	後	2(30)	必				
	政治学	後	2(30)	選								
	哲学	前	2(30)	選								
	グローバル教養	後	2(30)	選								
	異文化理解	前	2(30)	選								
	法と社会(日本国憲法)	通	4(60)	選								
	社会学	後	2(30)	選								
	聴覚障害者の理解と支援	前	1(15)	選								
	知多学	前	2(30)	選								
ふくしとフィールドワーク	前	2(30)	選									
福祉社会入門	前	2(30)	選									
日本福祉大学の歴史	後	2(30)	選									
地震と防災社会	前	2(30)	選									
ヒューマンケアのための多職種連携	後	2(30)	選									
2 年次	ふくしと減災コミュニティ	後	2(30)	選	疾病論(内科系)	前	2(60)	必	看護技術演習Ⅲ	前	1(30)	必
	福祉の力	前	2(30)	選	疾病論(外科系)	後	2(60)	必	看護技術演習Ⅳ	前	1(30)	必
	知多半島のふくし	後	2(30)	選	疾病論(小児系)	前	1(30)	必	看護過程演習	前	1(30)	必
					疾病論(母性系)	前	1(30)	必	災害看護	後	1(15)	必
					臨床薬理学	前	1(30)	必	基礎看護学実習Ⅱ	前	2(90)	必
					臨床検査学	後	1(30)	必	成人看護学概論	後	2(30)	必
					臨床栄養学	後	1(30)	必	老年看護学概論	後	2(30)	必
					保健行動論	前	2(30)	必	小児看護学概論	後	2(30)	必
					公衆衛生学	前	2(30)	必	母性看護学概論	後	2(30)	必
					疫学	後	2(30)	必	精神看護学概論	前	2(30)	必
					保健医療福祉政策論	後	2(30)	必	在宅看護論	後	2(30)	必
					保健医療統計学	後	1(30)	必	地域看護学概論	前	1(15)	必
					老年学	後	1(15)	全履	公衆衛生看護学概論	前	1(15)	必
3 年次	ふくしフィールドワーク実践	後	2(30)	選					公衆衛生看護方法論Ⅰ	後	2(60)	必
									地域看護学実習	後	1(45)	必
4 年次									多職種連携論	後	1(15)	必
									国際看護論	前	2(30)	選
									多職種連携実践論	後	1(15)	選
									成人慢性期看護方法論	前	2(60)	必
									成人急性期看護方法論	前	2(60)	必
									老年看護方法論	前	2(60)	必
									小児看護方法論	前	2(60)	必
									母性看護方法論	前	2(60)	必
									精神看護方法論	前	2(60)	必
									在宅看護方法論	前	2(60)	必
								老年看護学実習Ⅰ	前	1(45)	必	
								看護学研究方法論	前	1(30)	必	
								卒業研究Ⅰ	後	1(30)	必	
								＜3年次後期～4年次前期＞				
								慢性期看護学実習		3(135)	必	
								急性期看護学実習		3(135)	必	
								老年看護学実習Ⅱ		2(90)	必	
								小児看護学実習		2(90)	必	
								母性看護学実習		2(90)	必	
								精神看護学実習		2(90)	必	
								在宅看護論実習		2(90)	必	
								卒業研究Ⅱ	前	1(30)	必	
								看護統合実習	前	2(90)	必	
								看護管理概論Ⅱ	後	1(15)	必	
								看護感染論	後	2(30)	選	
								看護教育論	後	2(30)	選	
								緩和ケア論	後	2(30)	選	
								リハビリテーション看護論	後	2(30)	選	
								家族看護論	後	2(30)	選	
								統合看護基礎技術演習	後	1(30)	選	
								チーム医療連携演習	後	1(30)	選	
								国際保健演習	後	1(30)	選	
								公衆衛生看護方法論Ⅱ	前	2(30)	選	
								公衆衛生看護方法論Ⅲ	前	1(15)	選	
								公衆衛生看護方法論Ⅳ	後	1(15)	選	
								公衆衛生看護管理活動論	後	2(30)	選	
								保健医療福祉政策論演習	後	2(30)	選	
								公衆衛生看護学実習Ⅰ	前	3(135)	選	
								公衆衛生看護学実習Ⅱ	前	2(90)	選	

必…必修科目 全履…全員履修科目 選…選択科目

健康科学部

Faculty of Health Sciences

履修ガイド2023

COURSE GUIDE 2023

リハビリテーション学科

理学療法学専攻
作業療法学専攻
介護学専攻

福祉工学科

健康情報専修・情報工学専修
バリアフリーデザイン専修・建築バリアフリー専修

◆◆◆

Department of Rehabilitation

Physical Therapy Course
Occupational Therapy Course
Care Work course

Department of Human Care Engineering

Health Assistance Information Course・*Computer Science Course*
Barrier-free Design Course・*Architecture & Barrier-free Course*



■ リハビリテーション学科 理学療法学専攻 〈2020年度以降の入学生用〉

学年	総合基礎科目	専門基礎科目	専門科目
1年	<ul style="list-style-type: none"> ● 基礎演習Ⅰ (1) ● 基礎演習Ⅱ (1) ◎ 国際コミュニケーションⅠ (1) ◎ 国際コミュニケーションⅡ (1) 心理学 (2) 社会学 (2) 経済学 (2) 憲法 (2) 倫理学 (2) ◎ 健康科学概論 (1) ◎ 自然科学概論 (2) ◎ 統計学演習 (2) ◎ 情報処理演習 (2) スポーツと健康Ⅰ (1) スポーツと健康Ⅱ (1) こころからだ (2) 福祉社会入門 (2) ヒューマンケアのための多職種連携 (2) ● 人間関係とコミュニケーション (2) 	<p>【学科共通専門基礎科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域包括ケアシステム論 (2) ● 人間発達学 (1) <p>【作業療法学専攻共通専門基礎科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● リハビリテーション概論 (2) ● 生理学Ⅰ (2) ● 生理学Ⅱ (2) ● 解剖学Ⅰ (2) ● 医学概論 (1) <p>【専攻専門基礎科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生化学 (1) ● 解剖学Ⅱ (2) ● 解剖学実習 (2) ● 生理学実習 (1) 	<p>【専攻専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 理学療法学概論 (2) ● 基礎運動学 (2) ● 運動療法学Ⅰ (1) ● 運動療法学Ⅰ実習 (1) ● 応用運動学 (2) ● 理学療法評価学Ⅰ (2) ● 理学療法評価学Ⅰ実習 (2) ● 見学実習前指導 (1) ● 見学実習 (1)
2年		<p>【作業療法学専攻共通専門基礎科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 臨床心理学 (1) ● 小児科学 (1) ● 老年学 (1) ● 病理学 (2) ● 整形外科 (2) ● 内科学 (2) ● 臨床神経科学 (2) ● 精神科学 (2) ● 栄養学 (1) ● 医学英語Ⅰ (1) ● 医学英語Ⅱ (1) <p>【専攻専門基礎科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 疼痛医学 (1) 	<p>【学科共通専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害者福祉論 (2) <p>【専攻専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 運動療法学Ⅱ (2) ● 物理療法学 (2) ● 物理療法学実習 (2) ● 日常生活活動学 (2) ● 日常生活活動学実習 (2) ● 理学療法評価学Ⅱ (2) ● 理学療法評価学Ⅱ実習 (2) ● 運動学実習 (2) ● 運動器理学療法学 (2) ● 運動器理学療法学実習 (2) ● 義肢装具学 (2) ● 義肢装具学実習 (1) ● 機能障害科学 (1) ● 評価実習前指導 (1) ● 評価実習 (4)
3年		<p>【作業療法学専攻共通専門基礎科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 救急医学 (1) ● 薬理学 (1) ● 公衆衛生学 (2) 	<p>【専攻専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者理学療法学 (1) ● 小児理学療法学 (2) ● 内部障害理学療法学 (2) ● 内部障害理学療法学実習 (2) ● 神経系理学療法学 (2) ● 神経系理学療法学実習 (2) ● 地域理学療法学 (1) ● スポーツ理学療法学 (2) ● 理学療法学研究Ⅰ (1) ● 総合実習前指導 (1) ● 総合実習 (12) ● 地域理学療法学実習 (1) ● 前庭リハビリテーション (2) ● 理学療法管理学 (2)
4年			<p>【学科共通専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ターミナルケア (2) 福祉住環境計画 (2) <p>【作業療法学専攻共通専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> リハビリテーション工学 (2) <p>【専攻専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 理学療法特論 (1) ● 統合理学療法学 (2) ● がん理学療法学 (1) ● 医療統計学 (1) ● ヘルスプロモーション (1) ● 理学療法学研究Ⅱ (1) ● 理学療法学研究Ⅲ (1) ● 総合実習後指導 (1)

● : 必修科目 ◎ : 全員履修科目

■ リハビリテーション学科 作業療法学専攻 (2020年度以降の入学生用)

学年	総合基礎科目	専門基礎科目	専 門 科 目	
1年	<ul style="list-style-type: none"> ● 基礎演習 (2) ◎ 国際コミュニケーションⅠ (1) ◎ 国際コミュニケーションⅡ (1) ◎ 国際コミュニケーションⅢ (1) 心理学 (2) 社会学 (2) 経済学 (2) 憲法 (2) 倫理学 (2) ◎ 健康科学概論 (1) ◎ 自然科学概論 (2) ◎ 統計学演習 (1) ◎ 情報処理演習 (2) スポーツと健康Ⅰ (1) スポーツと健康Ⅱ (1) こころとからだ (2) 福祉社会入門 (2) ヒューマンケアのための多職種連携 (2) ● 人間関係とコミュニケーション (2) 	<p>【学科共通専門基礎科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域包括ケアシステム論 (2) ● 人間発達学 (1) <p>【理学療法学専攻共通専門基礎科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● リハビリテーション概論 (2) ● 生理学Ⅰ (2) ● 生理学Ⅱ (2) ● 解剖学Ⅰ (2) ● 基礎運動学 (2) ● 医学概論 (1) <p>【専攻専門基礎科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 解剖学実習 (1) ● 生理学実習 (1) 	<p>【専攻専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 作業療法学概論 (1) ● 基礎作業学 (2) リハビリテーション介護 (1) ● 解剖生理学実習 (1) ● 神経系解剖生理学 (2) ● 運動器系解剖生理学Ⅰ (2) ● 見学実習指導 (1) ● 見学実習 (2) 	
2年	<ul style="list-style-type: none"> ◎国際コミュニケーションⅣ (1) 	<p>【理学療法学専攻共通専門基礎科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 臨床心理学 (1) ● 小児科学 (1) ● 老年学 (1) ● 病理学 (2) ● 整形外科学 (2) ● 内科学 (2) ● 臨床神経科学 (2) ● 精神科学 (2) ● 栄養学 (1) <p>【専攻専門基礎科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 基礎運動学実習 (1) 	<p>【学科共通専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害者福祉論 (2) <p>【介護学専攻共通専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域福祉論 (2) 	<p>【専攻専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 応用運動学 (1) ● 運動器系解剖生理学Ⅱ (2) ● 作業療法評価学Ⅰ (2) ● 作業療法評価学Ⅱ (1) ● 作業療法評価学Ⅲ (1) ● 作業療法評価学実習Ⅰ (1) ● 作業療法評価学実習Ⅱ (1) ● 身体障害作業療法学Ⅰ (1) ● 身体障害作業療法学Ⅱ (1) ● 精神障害作業療法学Ⅰ (1) ● 日常生活活動学 (2) ● 日常生活活動学実習 (1) ● 作業療法学基礎演習 (1) ● 評価実習指導 (1) ● 評価実習 (3)
3年		<p>【理学療法学専攻共通専門基礎科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 医学英語Ⅰ (1) 医学英語Ⅱ (1) ● 救急医学 (1) ● 薬理学 (1) ● 公衆衛生学 (2) 	<p>【学科共通専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉住環境計画 (2) 	<p>【専攻専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 義肢装具学 (1) 高齢者福祉論 (2) ● 作業療法介入法Ⅰ (実技) (1) ● 作業療法介入法Ⅱ (実技) (1) ● 作業療法評価学Ⅳ (1) ● 身体障害作業療法学Ⅲ (1) ● 身体障害作業療法学Ⅳ (1) ● 精神障害作業療法学Ⅱ (1) ● 生活環境介入論 (1) ● 老年期作業療法学 (2) ● 小児作業療法学Ⅰ (1) ● 小児作業療法学Ⅱ (1) ● 高次脳機能障害学 (2) ● 地域リハビリテーションⅠ (1) ● 地域リハビリテーションⅡ (1) ● 環境因子調整法 (実習) (1) ● 作業療法学専門演習 (1) ● 作業療法研究法 (1) ● 総合実習指導 (1) ● 総合実習Ⅰ (12)
4年	<ul style="list-style-type: none"> キャリア開発 (1) 		<p>【学科共通専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ターミナルケア (2) <p>【理学療法学専攻共通専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> リハビリテーション工学 (2) <p>【介護学専攻共通専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 中枢神経障害のリハビリテーション (1) ● 整形外科系障害のリハビリテーション (1) ● 高次脳機能障害リハビリテーション (1) ● 精神障害リハビリテーション (1) 	<p>【専攻専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 認知症リハビリテーション (1) ● 内科系障害リハビリテーション (1) ● 上肢運動機能リハビリテーション (1) ● 作業療法介入法Ⅲ (実技) (1) ● 総合作業療法学 (1) ● 総合作業療法学演習 (1) ● 作業療法指導法演習 (1) ● 作業療法学研究Ⅰ (1) ● 作業療法学研究Ⅱ (1) ● 総合実習Ⅱ (5) ● 地域作業療法学実習 (1) ● 作業療法管理学 (2)

●：必修科目 ◎：全員履修科目



■ リハビリテーション学科 介護学専攻 (2021年度以降の入学生用)

学年	総合基礎科目	専門基礎科目	専門科目
1年	<ul style="list-style-type: none"> ● 基礎演習Ⅰ (1) ● 基礎演習Ⅱ (1) ● 国際コミュニケーションⅠ (1) ● 国際コミュニケーションⅡ (1) ● 国際コミュニケーションⅢ (1) ● 国際コミュニケーションⅣ (1) ● 心理学 (2) ● 経済学 (2) ● 憲法 (2) ● 倫理学 (2) ◎ 健康科学概論 (1) ● 自然科学概論 (2) ◎ 情報処理演習 (2) ● スポーツと健康Ⅰ (1) ● スポーツと健康Ⅱ (1) ● ころとからだ (2) ● 福祉社会入門 (2) ● ヒューマンケアのための多職種連携 (2) ● 人間関係とコミュニケーション (2) 	<p>【学科共通専門基礎科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域包括ケアシステム論 (2) ● 人間発達学 (1) <p>【専攻専門基礎科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 介護福祉論Ⅰ (2) ● 生活支援技術Ⅰ (からだのしくみ) (2) ● 医学一般Ⅰ (からだのしくみ) (2) ● 医学一般Ⅱ (認知症の理解) (2) ● 生理学 (2) 	<p>【専攻専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生活支援技術Ⅱ (2) ● 生活支援技術演習Ⅰ (1) ● 生活支援技術演習Ⅱ (1) ● 介護過程 (2) ● 介護過程演習Ⅰ (1) ● 家政学Ⅰ (調理実習) (1) ● 認知症介護 (2) ● 社会保障論Ⅰ (2) ● ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ (2) ● ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ (2) ● 介護総合演習Ⅰ (1) ● 介護総合演習Ⅱ (1) ● 介護実習Ⅰ (2) ● 介護実習Ⅱ (3)
2年	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会学 (2) ◎ 統計学演習 (2) 	<p>【専攻専門基礎科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● リハビリテーション概論 (2) ● 社会福祉原論Ⅰ (2) ● 介護福祉論Ⅱ (2) 	<p>【学科共通専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 障害者福祉論 (2) <p>【作業療法学専攻共通専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● リハビリテーション介護 (1) <p>【専攻専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 介護過程演習Ⅱ (1) ● 介護過程演習Ⅲ (1) ● 多職種連携 (2) ● 家政学Ⅱ (家庭経営) (2) ● 生活支援技術Ⅲ (運動機能・内部障害) (2) ● 生活支援技術Ⅳ (視覚・聴覚障害) (2) ● 障害の理解 (2) ● 高齢者の理解 (1) ● 地域福祉論Ⅰ (2) ● ソーシャルワーク論Ⅰ (2) ● ソーシャルワーク論Ⅱ (2) ● 介護総合演習Ⅲ (1) ● 介護実習Ⅲ (5)
3年		<p>【専攻専門基礎科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 社会調査法 (2) ● 社会福祉原論Ⅱ (2) 	<p>【学科共通専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ターミナルケア (2) <p>【専攻専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● リスクマネジメント (2) ● 家政学Ⅲ (住居) (2) ● 福祉用具と住環境 (2) ● 心理的支援 (2) ● 医療的ケア (2) ● 医療的ケア演習 (吸引) (1) ● 医療的ケア演習 (経管栄養) (1) ● 介護学研究Ⅰ (2) ● 福祉サービス組織経営論 (2) ● 高齢者福祉論 (2) ● 地域福祉論Ⅱ (2) ● 医療福祉論 (2) ● 権利擁護と成年後見 (2) ● 社会保障論Ⅱ (2) ● 公的扶助論 (2) ● ソーシャルワーク論Ⅲ (2) ● ソーシャルワーク論Ⅳ (2) ● ソーシャルワーク演習Ⅰ (1) * ● ソーシャルワーク演習Ⅱ (1) * ● ソーシャルワーク演習Ⅲ (2) * ● ソーシャルワーク実習指導Ⅰ (1) * ● ソーシャルワーク実習指導Ⅱ (1) * ● ソーシャルワーク実習 (4) *
4年			<p>【作業療法学専攻共通専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 中枢神経障害のリハビリテーション (1) ● 整形外科系障害のリハビリテーション (1) ● 精神障害リハビリテーション (1) ● 高次脳機能障害リハビリテーション (1) <p>【専攻専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生活支援技術演習Ⅲ (1) ● 介護過程演習Ⅳ (1) ● 基礎バイオメカニクス (1) ● 疾患と生活支援 (2) ● 介護学研究Ⅱ (2) ● 司法福祉論 (2) ● 児童家庭福祉論 (2) ● ソーシャルワーク演習Ⅳ (1) * ● ソーシャルワーク実習指導Ⅲ (1) *

● : 必修科目 ◎ : 全員履修科目 * : 社会福祉士課程登録者のみ履修可



■ 福祉工学科 建築バリアフリー専修 (2021年度以降の入学生用)

学年	総合基礎科目	専門基礎科目	専門科目	自由科目
1年	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 国際コミュニケーションⅠ (1) ◎ 国際コミュニケーションⅡ (1) 心理学 (2) 社会学 (2) 経済学 (2) 憲法 (2) 倫理学 (2) ◎ 健康科学概論 (1) 自然科学概論 (2) ● 情報処理演習 (2) スポーツと健康Ⅰ (1) スポーツと健康Ⅱ (1) 日本福祉大学の歴史 (2) ここからた (2) 福祉社会入門 (2) 視覚障害者支援論 (2) ろう文化と手話 (2) 地震と減災社会 (2) 聴覚障害者の理解と支援 (1) ふくしとフィールドワーク (2) 国際理解 (4) 	<p>【学科共通専門基礎科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 基礎数学Ⅰ (2) リハビリテーション論 (2) 医学一般Ⅰ (からだのしくみ) (2) <p>【専修専門基礎科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎数学Ⅱ (2) 建築デザイン入門 (2) 【建築】 環境建築入門 (2) 	<p>【学科共通専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護福祉論 (2) 福祉用具論 (2) 情報技術Ⅰ (2) 【単位認定科目】 情報技術Ⅱ (2) 【単位認定科目】 情報技術Ⅲ (2) 【単位認定科目】 情報技術Ⅳ (2) 【単位認定科目】 キャリア形成Ⅰ (2) 【単位認定科目】 キャリア形成Ⅱ (2) 【単位認定科目】 キャリア形成Ⅲ (2) 【単位認定科目】 キャリア形成Ⅳ (2) 【単位認定科目】 <p>【専修専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 建築計画Ⅰ (2) 【建築】 建築図学 (2) 【建築】 建築製図演習 (4) 【建築】 建築学概論 (2) 【建築】 建築材料Ⅰ (2) 【建築】 	
2年	<ul style="list-style-type: none"> 知多半島のふくし (2) ふくしと減災コミュニティ (2) 	<p>【専修専門基礎科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 確率統計学演習 (2) 	<p>【学科共通専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害者福祉論 (2) 地域福祉論Ⅰ (2) 建築ユニバーサルデザイン論 (2) 【建築】 インターンシップⅠ (1) 【単位認定科目】 インターンシップⅡ (2) 【単位認定科目】 <p>【専修専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 建築人間工学 (2) 【建築】 建築デザイン表現演習 (2) 【建築】 建築材料Ⅱ (2) 【建築】 建築構造力学 (2) 【建築】 建築構造力学応用 (2) 【建築】 建築測量実習 (2) 【建築】 建築CAD演習 (2) 【建築】 環境政策論 (2) 建築法規 (2) 【建築】 生態学概論 (2) 建築計画Ⅱ (2) 【建築】 建築設計演習Ⅰ (4) 【建築】 建築設計演習Ⅱ (4) 【建築】 建築生産 (2) 【建築】 都市計画論 (2) 【建築】 エコロジカル建築 (2) 【建築】 都市景観生態学 (2) 【建築】 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ビジネススキル (2) ※卒業要件単位数には算入されません </div>
3年	<ul style="list-style-type: none"> ふくしフィールドワーク実践 (2) 	<p>【学科共通専門基礎科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会調査法 (2) 	<p>【学科共通専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリア開発 (2) キャリア研究 (2) 高齢者福祉論 (2) <p>【建築デザインコース】</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉住環境計画 (2) 【建築】 建築設備 (2) 【建築】 建築環境工学 (2) 【建築】 福祉環境設計演習 (4) 【建築】 建築防災計画 (2) 【建築】 ● 卒業研究Ⅰ (4) <p>【環境建築コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> 森林保護学 (2) 環境経済学 (2) ビオトープ計画施工演習 (4) 環境分析評価演習 (2) 造園学 (2) 都市緑化論 (2) 【建築】 エコロジカル建築設計演習 (4) 【建築】 環境共生のまちづくり (2) 【建築】 ● 卒業研究Ⅰ (4) <p>【コース共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> 建築一般構造 (2) 【建築】 建築一般構造応用 (2) 【建築】 	
4年			<p>【建築デザインコース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 卒業研究Ⅱ (4) <p>【環境建築コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ビオトープ研究 (2) ● 卒業研究Ⅱ (4) <p>【コース共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業・行政研究 (2) 	

●：必修科目 ◎：全員履修科目

【建築】：建築士科目 【単位認定科目】：一定の要件を満たした後、本人の申請により認定される科目

■ 福祉工学科 情報工学専修 〈2021年度以降の入学生用〉

学年	総合基礎科目	専門基礎科目	専門科目	自由科目
1年	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 国際コミュニケーションⅠ (1) ◎ 国際コミュニケーションⅡ (1) 心理学 (2) 社会学 (2) 経済学 (2) 憲法 (2) 倫理学 (2) ◎ 健康科学概論 (1) 自然科学概論 (2) ● 情報処理演習 (2) スポーツと健康Ⅰ (1) スポーツと健康Ⅱ (1) 日本福祉大学の歴史 (2) ここからだ (2) 福祉社会入門 (2) 視覚障害者支援論 (2) ろう文化と手話 (2) 地震と減災社会 (2) 聴覚障害者の理解と支援 (1) ふくしとフィールドワーク (2) 国際理解 (4) 	<p>【学科共通専門基礎科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 基礎数学Ⅰ (2) リハビリテーション論 (2) ★ 医学一般Ⅰ (からだのしくみ) (2) <p>【専修専門基礎科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎演習 (2) ■※ 基礎数学Ⅱ (2) ★ 情報処理 (2) ■※ 情報工学入門 (2) ■※ 情報数学Ⅰ (2) ★ 	<p>【学科共通専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護福祉論 (2) 福祉用具論 (2) ■【福フ】※ 情報技術Ⅰ (2) 【単位認定科目】 情報技術Ⅱ (2) 【単位認定科目】 情報技術Ⅲ (2) 【単位認定科目】 情報技術Ⅳ (2) 【単位認定科目】 キャリア形成Ⅰ (2) 【単位認定科目】 キャリア形成Ⅱ (2) 【単位認定科目】 キャリア形成Ⅲ (2) 【単位認定科目】 キャリア形成Ⅳ (2) 【単位認定科目】 <p>【専修専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> プログラミング演習Ⅰ (2) ■※ プログラミング演習Ⅱ (2) ★ コンピュータシステムⅠ (2) ★ 	
2年	<ul style="list-style-type: none"> 知多半島のふくし (2) ふくしと減災コミュニティ (2) 	<p>【専修専門基礎科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 論理回路 (2) 健康情報演習A (2) ■【福フ】※ 健康情報演習B (2) ■※ 情報数学Ⅱ (2) ★ 確率統計学演習 (2) 	<p>【学科共通専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害者福祉論 (2) 地域福祉論Ⅰ (2) インターンシップⅠ (1) 【単位認定科目】 インターンシップⅡ (2) 【単位認定科目】 <p>【専修専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人工知能Ⅰ (2) ★ 力学基礎 (2) ★ コンピュータシステムⅡ (2) ★ データ構造とアルゴリズムⅠ (2) ★ リハビリテーション工学 (2) ★【福フ】 オブジェクト指向プログラミング演習 (2) データベース (2) ★ システム設計論 (2) 情報ネットワーク (2) ★ 福祉用具演習 (1) 【福フ】 身体機能リハビリテーション (2) 【福フ】 認知機能リハビリテーション (2) 【福フ】 福祉用具市場の理解 (2) 【福フ】 医療システム開発演習 (2) 情報アクセシビリティ (2) 情報セキュリティ (2) Webプログラミング演習 (1) 	<p>ビジネススキル (2) ※卒業要件単位数には算入されません</p>
3年	<ul style="list-style-type: none"> ふくしフィールドワーク実践 (2) 情報英語 (1) 	<p>【学科共通専門基礎科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会調査法 (2) 	<p>【学科共通専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリア開発 (2) 【福フ】 高齢者福祉論 (2) キャリア研究 (2) <p>【専修専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人工知能Ⅱ (2) データ構造とアルゴリズムⅡ (2) マルチメディア (2) 組込みプログラミング演習 (1) 生体情報とバイオメカニクス (2) リハビリテーションシステム (2) マルチメディア演習 (1) CAD演習Ⅰ (1) CAD演習Ⅱ (1) 情報工学実験 (2) 住環境整備・住宅関連機器 (2)【福フ】 健康情報実験 (1) 生活支援機器演習 (1) 生活と情報技術 (2) 福祉用具プランニング演習Ⅰ (1)【福フ】 福祉用具プランニング演習Ⅱ (1)【福フ】 健康情報総合演習Ⅰ (1) 健康情報総合演習Ⅱ (1)【福フ】 業界研究 (1) ● 卒業研究Ⅰ (4) ■ 	
4年			<p>【専修専門科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 卒業研究Ⅱ (4) 	

● : 必修科目 ◎ : 全員履修科目
 ■ : 卒業研究Ⅱ履修前提条件 (必修) ★ : 卒業研究Ⅱ履修前提条件 (選択) ※ : 3年次編転入生は全員履修科目
 【福フ】 : 福祉用具プランナー科目 【単位認定科目】 : 一定の要件を満たした後、本人の申請により認定される科目

日本福祉大学全学教育センター教員会議規程

（趣旨）

第1条 この規程は、日本福祉大学全学教育センター規程第4条2項に基づき、日本福祉大学全学教育センター教員会議（以下、「全学教育センター教員会議」という。）に関して必要な事項定める。

（構成）

第2条 全学教育センター教員会議は、全学教育センターに所属する教授、准教授、講師、助教をもって構成する。

2 全学教育センター長および同副センター長は、全学教育センター教員会議の構成員とする。

（招集・議長）

第3条 全学教育センター教員会議は、全学教育センター長がこれを招集し議長となる。

2 議長に事故あるときは、全学教育センター副センター長がこれを代行する。

3 全学教育センター教員会議の5分の1以上の者の請求があれば、議長はすみやかに全学教育センター教員会議を招集しなければならない。

（定足数）

第4条 全学教育センター教員会議は、構成員の3分の2以上の出席をもって成立する。ただし、定足数の5分の1以内は委任状をもってかえることができる。

（審議）

第5条 審議は、特別議決を要する事項のほかは、出席者の過半数の賛成をもって行う。

（議事）

第6条 全学教育センター教員会議は、次の事項について審議し、その結果を学長に達し、学長が決定する。

- (1) 全学教育センター所属教員人事（採用・昇格審査等）に関する事項
- (2) 全学教育センター非常勤講師の委嘱・派遣等に関する事項
- (3) 全学教育センターの将来計画に関する事項
- (4) 全学教育センターの諸規程の制定・改正に関する事項
- (5) 全学教育センター管轄科目の教育計画に関する事項
- (6) 全学教育センター教育の点検・評価に関する事項

- (7) 大学評議会及び各学部教授会から委嘱された事項
- (8) その他議長及び全学教育センター教員会議が必要と認める事項

（特別審議）

第7条 全学教育センター教員会議の議事のうち、専任教員の任免に関する事項及び昇格審査に関する事項は、全学教育センター長および全学教育センター副センター長、ならびに全学教育センター所属の普通任用教員による無記名投票を行う。投票総数の3分の2以上の多数によって、その結果を学長に進達し、学長が決定する。

（全学教育センター運営委員会）

第8条 議長のもとに全学教育センター運営委員会をおく。
2 全学教育センター運営委員会の運営については別に定める。

（特別委員会）

第9条 全学教育センター教員会議は、その必要に応じて特別委員会等を設置することができる。

（議事録）

第10条 全学教育センター教員会議の議事録は学務課が作成し、議長がこれを管理する。

（規程の所管課室）

第11条 本規程の所管課室は、学務課とする。

（規程の改廃）

第12条 本規程の改廃は、大学評議会が審議し、学長が決定する。

附 則

- 1 この規程は、2011年4月1日より制定施行する。
- 2 本規程は、2015年4月1日から改正施行する。
- 3 本規程は、2019年4月1日から改正施行する。
- 4 本規程は、2023年4月1日から改正施行する。

日本福祉大学全学教育センター教員会議規程

（趣旨）

第1条 この規程は、日本福祉大学全学教育センター規程第4条2項に基づき、日本福祉大学全学教育センター教員会議（以下、「全学教育センター教員会議」という。）に関して必要な事項定める。

（構成）

第2条 全学教育センター教員会議は、全学教育センターに所属する教授、准教授、講師、助教をもって構成する。

2 全学教育センター長および同副センター長は、全学教育センター教員会議の構成員とする。

（招集・議長）

第3条 全学教育センター教員会議は、全学教育センター長がこれを招集し議長となる。

2 議長に事故あるときは、全学教育センター副センター長がこれを代行する。

3 全学教育センター教員会議の5分の1以上の者の請求があれば、議長はすみやかに全学教育センター教員会議を招集しなければならない。

（定足数）

第4条 全学教育センター教員会議は、構成員の3分の2以上の出席をもって成立する。ただし、定足数の5分の1以内は委任状をもってかえることができる。

（審議）

第5条 審議は、特別議決を要する事項のほかは、出席者の過半数の賛成をもって行う。

（議事）

第6条 全学教育センター教員会議は、次の事項について審議し、その結果を学長に達し、学長が決定する。

- (1) 全学教育センター所属教員人事（採用・昇格審査等）に関する事項
- (2) 全学教育センター非常勤講師の委嘱・派遣等に関する事項
- (3) 全学教育センターの将来計画に関する事項
- (4) 全学教育センターの諸規程の制定・改正に関する事項
- (5) 全学教育センター管轄科目の教育計画に関する事項
- (6) 全学教育センター教育の点検・評価に関する事項

- (7) 大学評議会及び各学部教授会から委嘱された事項
- (8) その他議長及び全学教育センター教員会議が必要と認める事項

（特別審議）

第7条 全学教育センター教員会議の議事のうち、専任教員の任免に関する事項及び昇格審査に関する事項は、全学教育センター長および全学教育センター副センター長、ならびに全学教育センター所属の普通任用教員による無記名投票を行う。投票総数の3分の2以上の多数によって、その結果を学長に進達し、学長が決定する。

（全学教育センター運営委員会）

第8条 議長のもとに全学教育センター運営委員会をおく。
2 全学教育センター運営委員会の運営については別に定める。

（特別委員会）

第9条 全学教育センター教員会議は、その必要に応じて特別委員会等を設置することができる。

（議事録）

第10条 全学教育センター教員会議の議事録は学務課が作成し、議長がこれを管理する。

（規程の所管課室）

第11条 本規程の所管課室は、学務課とする。

（規程の改廃）

第12条 本規程の改廃は、大学評議会が審議し、学長が決定する。

附 則

- 1 この規程は、2011年4月1日より制定施行する。
- 2 本規程は、2015年4月1日から改正施行する。
- 3 本規程は、2019年4月1日から改正施行する。
- 4 本規程は、2023年4月1日から改正施行する。

大学等名	日本福祉大学
教育プログラム名	日本福祉大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）

申請レベル	リテラシーレベル
申請年度	令和6年度

取組概要

日本福祉大学数理・データサイエンス・AI教育（リテラシーレベル）プログラム

目的 「数理・データサイエンス・AI教育（リテラシーレベル）プログラム」では、自分たちの将来における数理・データサイエンス・AIとの関わりを意識させ、これから学ぶ専門的知識と合わせて、社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

学習成果 数理・データサイエンス・AIの現状についての理解と、様々な分野において日々更新されている情報を調査・整理することができ、それらの知見をもとに自らの将来就く仕事への活用についての予測を立てられるようにする。

科目構成

全学部必修、全員履修科目、履修前提条件科目（2単位）のいずれかとなります（詳細は学部・履修ガイドを参照）

社会福祉学部	情報処理演習Ⅰ <small>※修了要件：「情報処理演習Ⅰ（2単位）」を修了すること</small>
経済学部	
教育・心理学部	
国際福祉開発学部	
スポーツ科学部	
看護学部	情報処理演習 <small>※修了要件：「情報処理演習（2単位）」を修了すること</small>
健康科学部 (福祉工学科情報工学専修以外)	

社会で起きている変化や、これからの社会に関して学び、自らの将来就く職業での活用について考える。情報を利用する側と提供する側の両側に立ち、気をつけなければならないことについて理解する。データを元に新たな知見を得て、それを他者にわかりやすく示す。

導入
基礎
心得

健康科学部
(福祉工学科情報工学専修のみ)

情報処理
※修了要件：「情報処理（2単位）」を修了すること

プログラム内容

- Society5.0により、社会にどのような変化が起こるのか、それにより、自分たちの生活がどのように変化するかについて理解するとともに、数理とデータサイエンス、AIとの関係性について考え、自らが目指す将来への活用について学ぶ。
- データを元に改革しようとしている現場とデータサイエンティストとの関係などをもとに、自分たちがどのようにデータと関わり、どのように提案していくのかについて学ぶ。
- データ・AIを利用する側と、提供する側の両側から自分を捉え、問題を起こさない、身を守るための心構えについて理解する。
- 得られたデータをどのように処理するのか、どのように表現するのか、自らの伝えたい想いと事実を元にデータを利用するための方法について学ぶ。
- 大学の特性上、アクセシビリティとAIに関する話題については、身近なものである。普段、何気なく恩恵に預かっているそれらの機器やシステムに関する理解を深め、より最適な利活用の方法を学ぶ。

プログラムの特徴

- 本学では、聴覚障害者への配慮や、何度も見直したい学生のため、伝えるべき内容に関して全て映像教材を作成して提供している。
- 映像教材で学習した内容について、課題を取り組み、次回の授業において活用、実践する反転学習を実施している。
- 自分たちの分野や将来像に合わせて理解を深めてもらうため、各単元の終了後には、それまでに学んだ内容について改めて自分たちで調査・整理・共有・発表（もしくはレポート報告）する回を設けている。

実施体制

- プログラム運営責任者：日本福祉大学全学教育センター長
- プログラムを改善・進化させるための体制：日本福祉大学全学教育センター教員会議
- プログラムの自己点検・評価の体制：日本福祉大学全学教育センター教員会議